新 構造設計特記仕様　その2

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

9. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm² 以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm² を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS5の14節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm²)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

□ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
□標準　□長期　□超長期
（本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。）

(◯) コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。

(◯) 設計基準強度が36N/mm² を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

□ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

(◯) 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

(◯) フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm² 以下33N/mm² 以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm² 未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36N/mm² 超 45N/mm² 未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm² 以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。

□ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³ 以下とする。

(◯) コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25°C未満の時は120分、25°C以上の時は90分とする。

(◯) コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

(◯) 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

(◯) コンクリート打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

(◯) コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108(コンクリートの圧縮強度試験方法)もしくはJIS A 1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。

i）高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。

□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。

□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm² 加えた値以上とする。

□ 調合管理強度は、以下による。

$_HF_m = F_c + {}_mS_n$ (N/mm²)

$_HF_m$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_c ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm²)
$_mS_n$ ： 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS5 による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$_HF \geqq {}_HF_m + 1.73\sigma_H$　(N/mm²)
$_HF \geqq 0.85\,{}_HF_m + 3\sigma_H$　(N/mm²)

$_HF$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm²)
σ_H ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差　(N/mm²)　で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、$0.1(F_c + {}_mS_n)$ とする。

ii）普通コンクリート

(◯) 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。

(◯) 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢(1)	判定基準
標準養生(2)	28 日	X ≧ Fm
コ　ア	91 日	X ≧ Fq

ただし、X ： 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)
Fm: コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

[注] (1) 若い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10°Cの日光および風が直接当らない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20°C以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20°C未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

(◯) 調合管理強度は、以下による。

$F_m = F_q + {}_mS_n$ (N/mm²)

F_m ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_q ： コンクリートの品質基準強度　(N/mm²)
$_mS_n$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値　(N/mm²)

(◯) 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として28日とする。

$F \geqq F_m + 1.73\sigma$　(N/mm²)
$F \geqq 0.85\,F_m + 3\sigma$　(N/mm²)

F ： コンクリートの調合強度 (N/mm²)
σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または 0.1Fm の大きい方の値とする。

(d) 検査

(◯) フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

(◯) スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

(◯) 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³ またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

(◯) 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³ またはその端数ごとに 1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

(◯) 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。

□ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名　（都知事登録　　号）
代行業者名　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(2) 鉄　筋

(a) 施工

(◯) 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。

□ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

(◯) 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

(◯) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注)				
		A 級	B 級	SA級		
(◯) 重ね継手	構造図による				□ D (16) 以下	
(◯) 圧接継手	□ 告示1463号第2項各号	□			□ D (19) 以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D (　) 以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D (　) 以上	

注) (1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2020）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

□ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

(◯) ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

(◯) 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量評価性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

□ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

i）鉄筋の種類・径の検査

(◯) 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。

ii）配筋の検査

(◯) 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。

iii）鉄筋継手部の検査
各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5　鉄筋継手部の検査　（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	(◯)外観検査	全数 ※	目視又は計測
	(◯)超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3062:2014による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0005:2017による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□超音波測定検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0003:2017による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241:2011による

注) 1 抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。
注) 2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6　外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備　考
		検査機関	施 工 者		
(◯)	全数	全数	（　）	（　）	
(◯)	全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	（　）	
□	全数	—	全数	（　）	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	（　）	（　）	

(◯) 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。

(◯) 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要綱第8条の検査機関とする。
試験機関名　（都知事登録　　号）
検査機関名　（都知事登録　　号）

(3) かぶり厚さ

(◯) 最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。

(◯) 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7以上の値とする。

表9.7　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋 内	屋 外(2)	屋 内	屋 外(2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注) (1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

□ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

□ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

(4) 型　枠

(◯) 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9.8　型枠存置日数　昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種類 / 部位		せき板				支柱		
		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類 / 存置期間の平均気温		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント / 普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種
コンクリートの材令(日)	15°C以上	2	3	4	6	8	17	28
	5°C～15°C	3	5	6	10	12	25	28
	5°C未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		※ 5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		設計基準強度の100%

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5N/mm² 以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm² 以上。また高強度コンクリートの場合は 10N/mm² 以上。

注) 1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注) 2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注) 4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを敷く。
注) 5 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注) 6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注) 7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	構造特記仕様書－２		
縮　尺	－	番　号	63 枚の内 SH02号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

2021年12月1日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（2）記号

d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　D…部材の成、又は鉄筋内法直径

ℓ₀…間隔　r…半径　℄…中心線　ℓ₀…部分間の内法距離　h₀…部材間の内法高さ

ST…あばら筋　HOOP…帯筋　S HOOP…補強帯筋

2．鉄筋加工

（1）鉄筋の折り曲げ加工

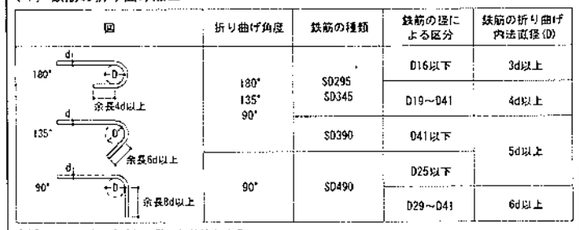


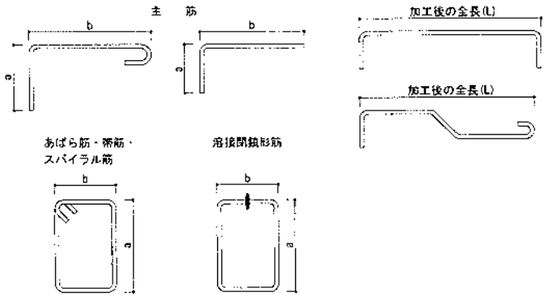
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	5d以上
			D29～D41	6d以上

[注]（1）dは呼び名に用いた数値とする。
（2）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
（3）片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
（4）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
（5）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
（6）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（2）加工寸法の許容差　(mm)

項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a, b	±15
		D29以上D41以下	a, b	±20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a, b	±5
加工後の全長			L	±20

[注]（1）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（3）鉄筋のあき

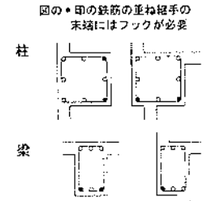
異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。

（4）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止め筋
b. 構築の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
c. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分および下端の両端にある場合の鉄筋（右図参照）
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所

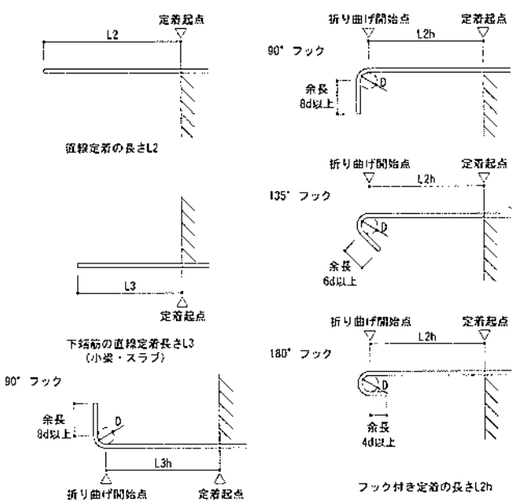
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

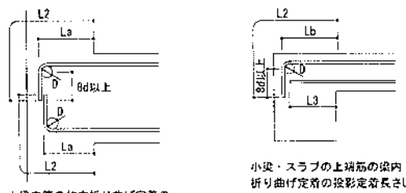


（5）定着長さ　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	L2h（フックあり）	La(3)	Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

[注]（1）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
（2）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
（3）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
（4）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。

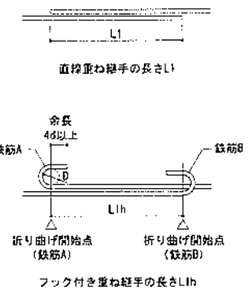




（6）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d

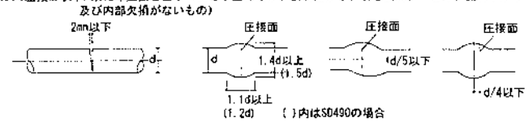


[注]（1）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
（2）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
（3）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

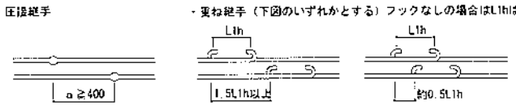
1. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
2. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
3. 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
4. ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、長れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手

・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1

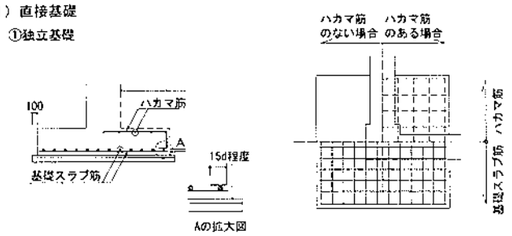


5. 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の認定等を受けたA級継手工法とする。
6. 非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

3．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

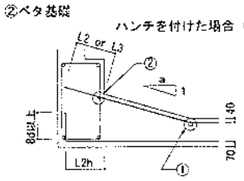
（1）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

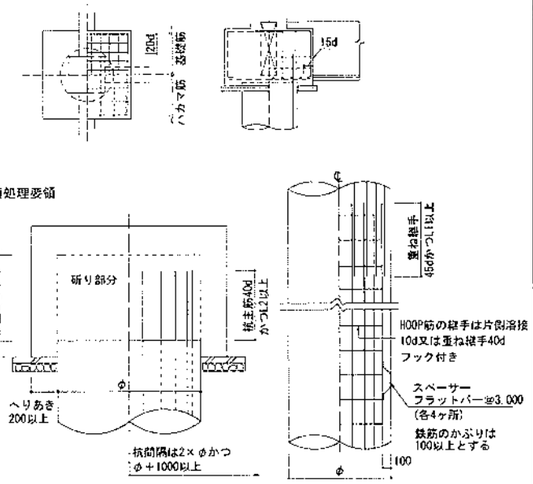
ハンチを付けた場合（a≧3）



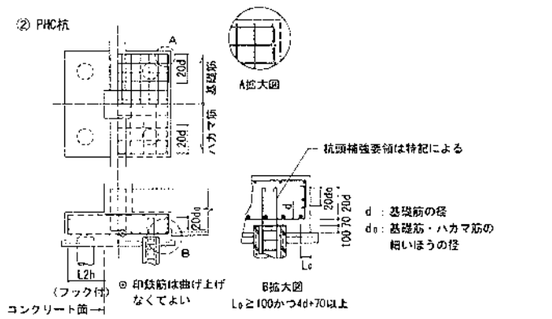
1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
   但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

（2）杭基礎

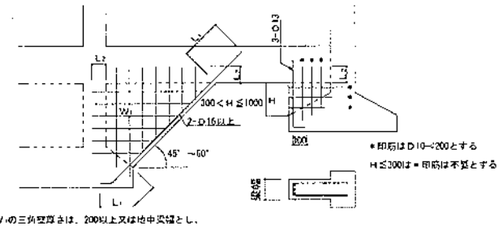
① 場所打ち杭



② PHC杭



（3）基礎接合部の補強



工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図－1		
縮尺	－	番号	63 枚の内 SH03号
設計年月日	令和7年3月		
設計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高山市			

構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－6)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

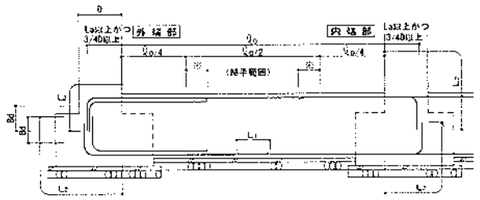
2021年12月1日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

※修正箇所は下線を引くこと

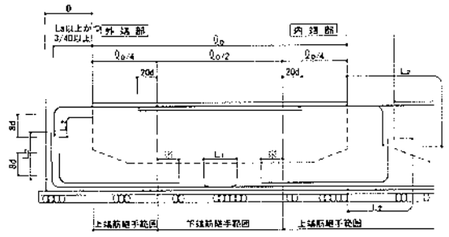
4．地中梁

（1）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）
（長期荷重が支配的な場合の継手は6.（2）大梁継手位置とする。）



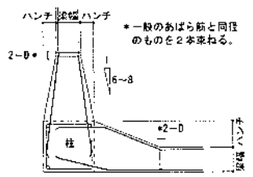
※主筋のカットオフ長さは $l_0/4$ ＋ 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6 大梁の項の表6-1による。

（2）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

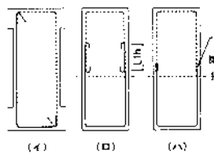


※主筋のカットオフ長さは $l_0/4$ ＋ 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

（3）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（4）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



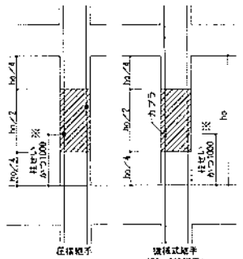
＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。



（注）（イ）で、└ を使用してよいが、└ は使用してはいけない。
（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

5．柱

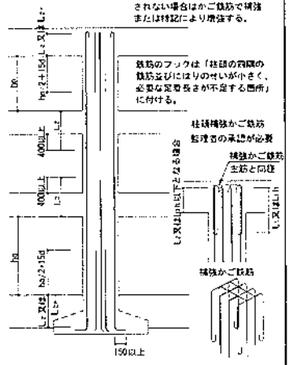
（1）柱主筋の継手位置



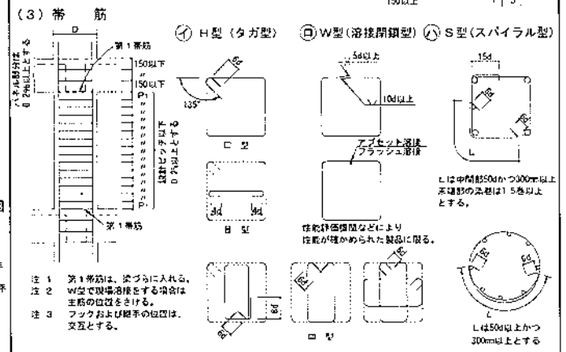
※ 柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

（2）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご筋等で補強または特記により補強する。

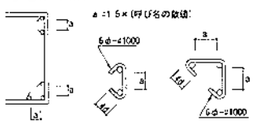


（3）帯　筋

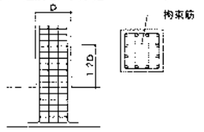


注 1　第1帯筋は、梁づらに入れる。
注 2　W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさげる。
注 3　フックおよび継手の位置は、交互とする。

（4）寄せ筋の保持



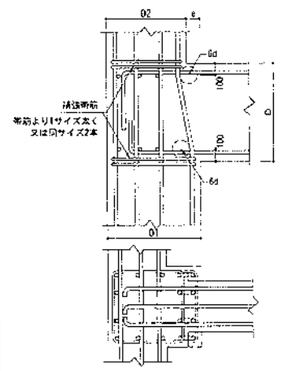
（5）柱脚部の補強



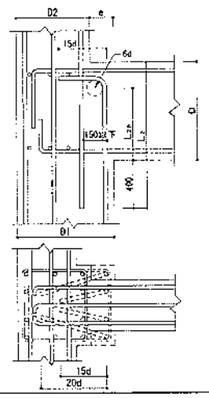
1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1/2倍の範囲を拘束筋で拘束する。
拘束筋は以下による。
□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ
□図示による

（6）絞り

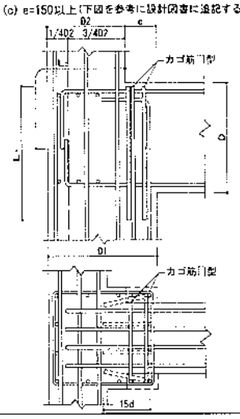
(a) e≦D/6かつ150



(b) 150≧e>D/6



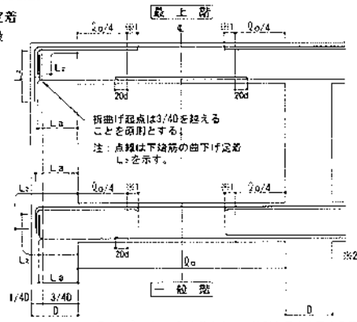
(c) e=150以上（下図を参考に設計図書に追記する。）

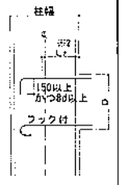


6．大梁

（1）定着

ⓐ一般





※2 柱幅が大きくて、直線部だけでL₂がとれる場合でも柱中心線を超えて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする。

※1 主筋のカットオフ長さは $l_0/4$ ＋ 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

ⓑハンチがある場合

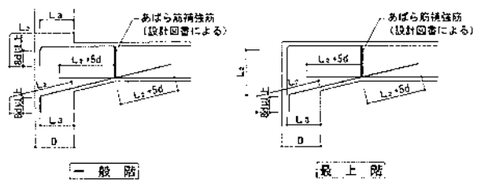
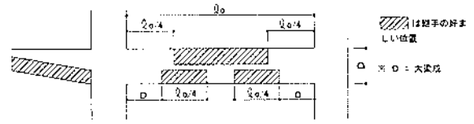


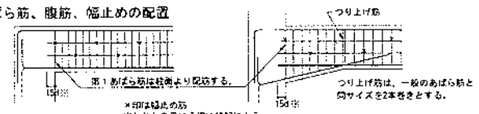
表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部材名	$l_0/4$ に加える長さ	部材名	$l_0/4$ に加える長さ

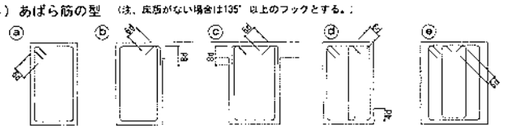
（2）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）



（3）あばら筋、腹筋、幅止めの配置

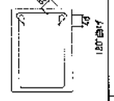


（4）あばら筋の型　（床、底版がない場合は135°以上のフックとする。）



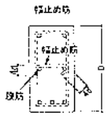
（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。片側底版付（L型）梁で ⓑ 、両側底版付（T型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



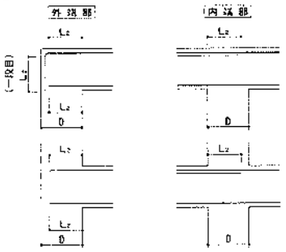
（5）幅止め筋の本数、加工

腹筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2−D10 1段
	900≦D＜1200	4−D10 2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

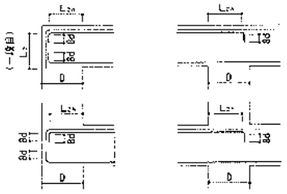


（6）梁主筋の定着

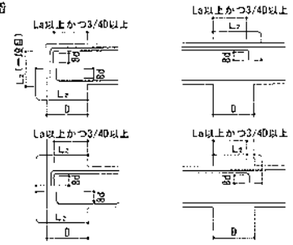
① 直線定着



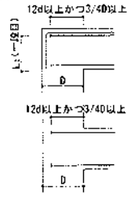
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。
※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図－２		
縮　尺	－	番　号	63 枚の内 SH04号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

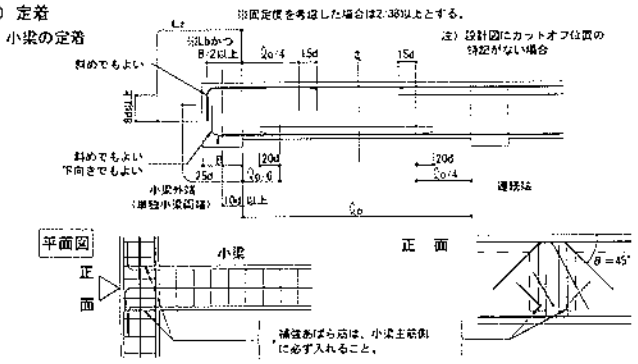
２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

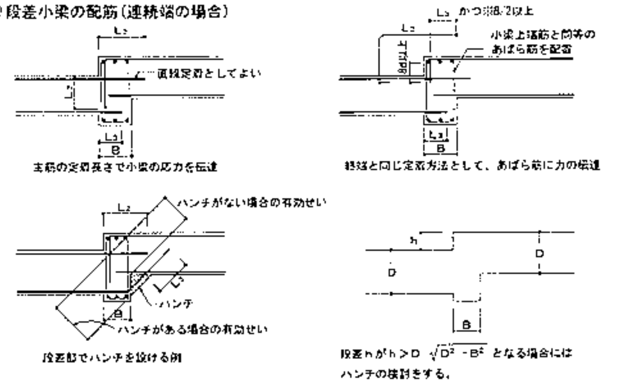
7．小梁、片持梁

（１）定着

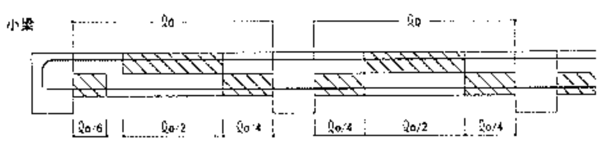
ⓐ 小梁の定着



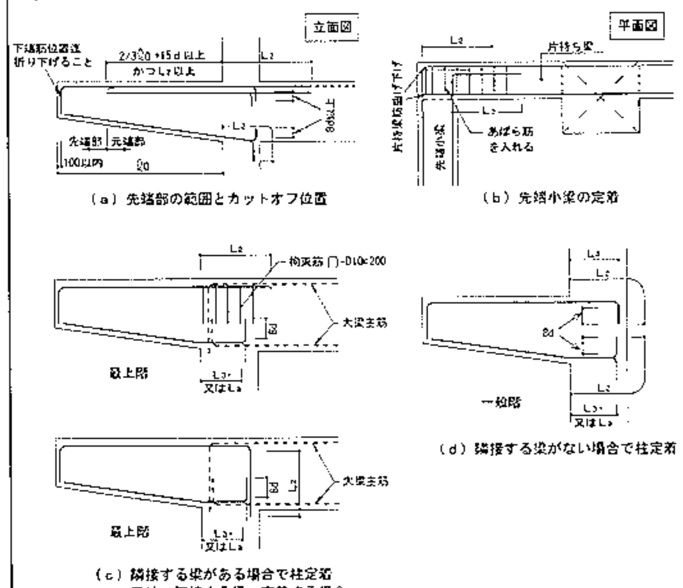
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



ⓒ 小梁筋の継手位置



ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



（a）先端部の範囲とカットオフ位置

（b）先端小梁の定着

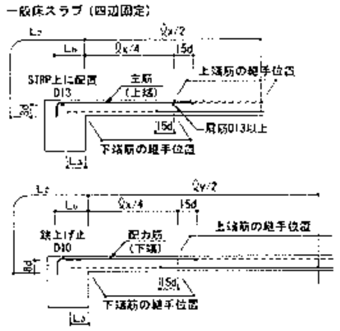
（c）隣接する梁がある場合で柱定着 又は、隣接する梁へ定着する場合

（d）隣接する梁がない場合で柱定着

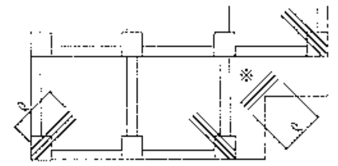
8．床　版

（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（２）屋根スラブの補強

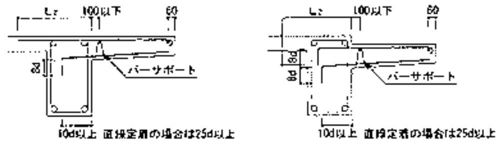


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

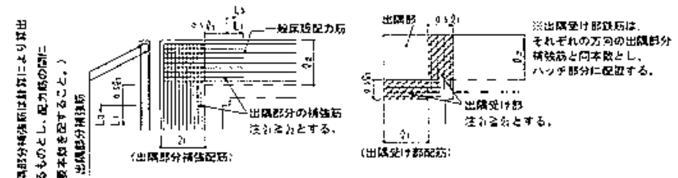
ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

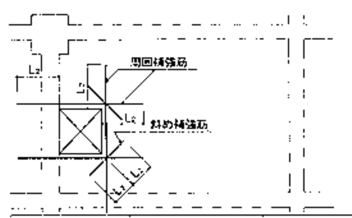
ⓐ 片持床スラブ定着



ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）L1は上端筋、L3は下端筋の定着長



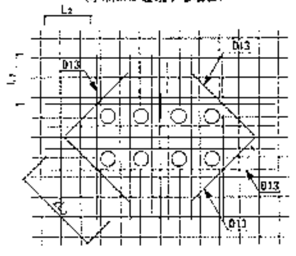
（４）床版開口部の補強（開口の径600以下程度の場合）



床版厚さD	周囲	斜め
D ≦ 150	上・下各 2-D13	1-D13
150 ＜ D ≦ 300	上・下各 2-D13	1-D13
300 ＜ D ≦ 500	上・下各 2-D19	1-D16

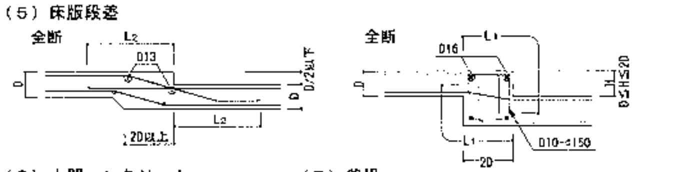
周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

（小開口が連続する場合）



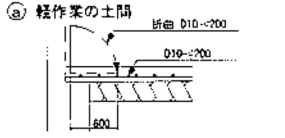
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差

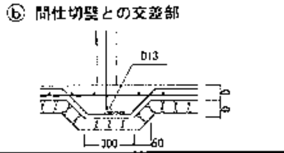


（６）土間コンクリート

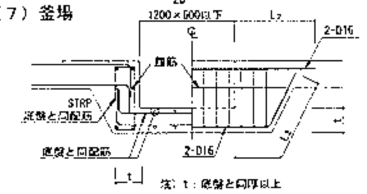
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交差部



（７）釜場

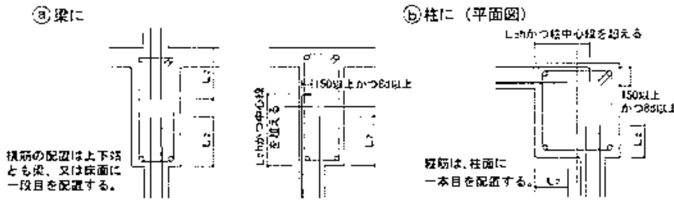


注）t：底盤と同厚以上

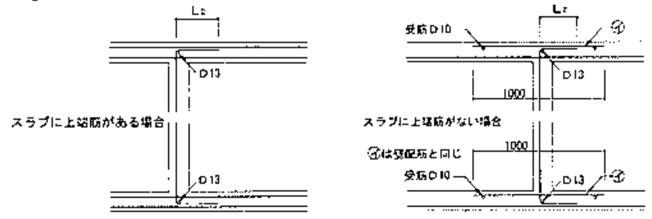
9．壁

（１）定着

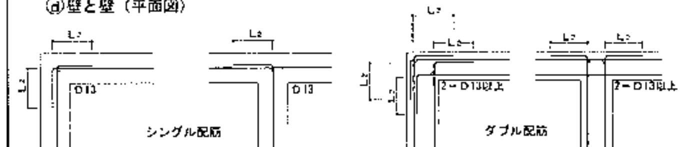
ⓐ 梁に　ⓑ 柱に（平面図）



ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）



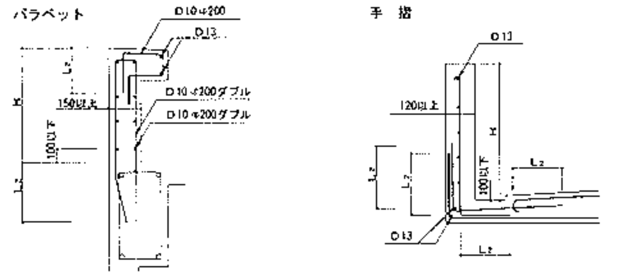
ⓓ 壁と壁（平面図）



（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）

完全スリット

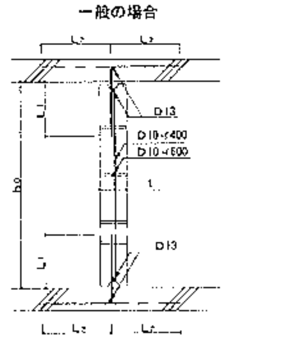
（３）手摺、パラペット



（但し、H＞８００以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合

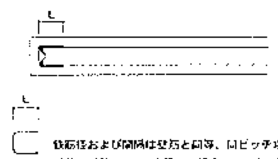


注）h0≦25ｔかつ3500以下とする，但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く

注）hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦h≦400

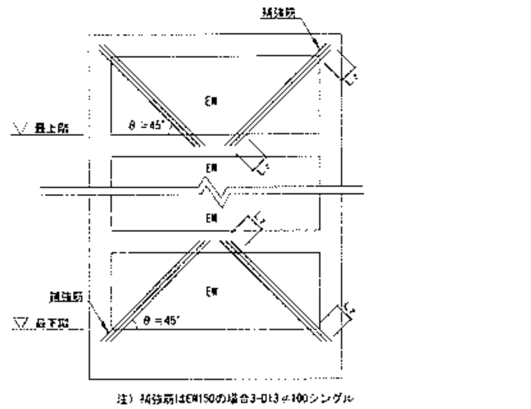
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

（５）耐震壁端部の納まり



鉄筋径および間隔は壁筋と同等、同ピッチ以上とし、壁筋に135°フックを設けた場合のLは8dとする。壁筋にフックを設けない場合のLはL2とする。

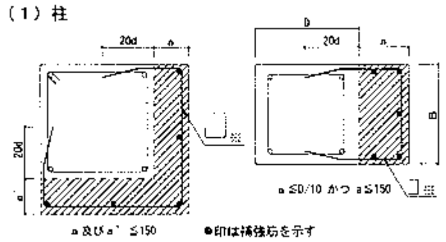
（６）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13＠100シングル
EW180～200の場合4-D13＠100シングル
EW250以上の場合4-D16＠100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



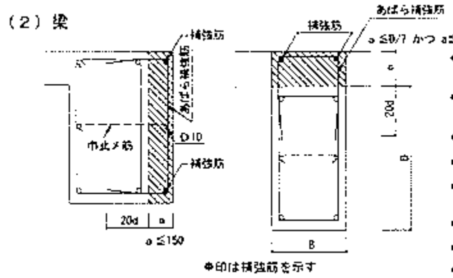
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000
3-D16	4-D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（２）梁

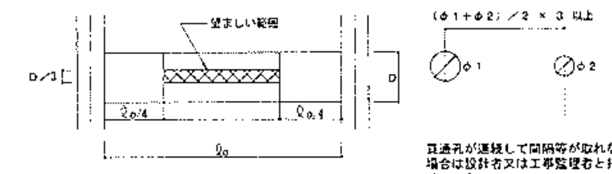


- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（D16以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

口製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図－３		
縮　尺	－	番 号	63 枚の内 SH05 号
設　計 年月日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

２０２１年１２月１日 発行 一般社団法人 東京都建築士事務所協会 監修 東京都建築構造行政連絡会

鉄骨構造標準図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による。
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

（2）工作一般

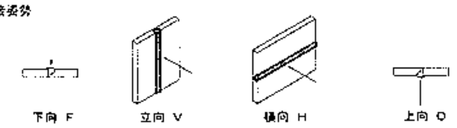
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（3）高力ボルト接合

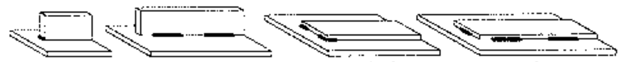
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（4）溶接接合

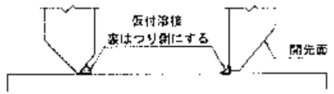
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
（イ）交流アーク溶接機 300A～500A （ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ロ）アークエアーガウジング機(直流) （ホ）溶接電流を測定する電流計
（ハ）セルフシールドアーク溶接機 （へ）溶接棒乾燥器
(d) 溶接方法
被覆アーク溶接(アーク手溶接、ＭＣ、ＭＰ) ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、ＧＣ、ＧＰ)
セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、ＮＧＣ） アークエアーガウジング（ＡＡＧ）
(e) 溶接姿勢



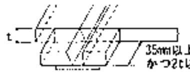
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
（イ）仮付位置
組立溶接は溶接の始.終端 隅角部など強度上.工作上.問題となり易い箇所は避ける。



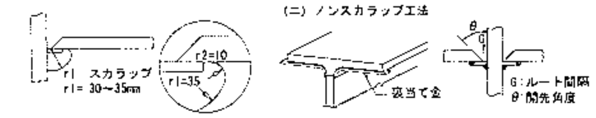
（ロ）完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(g) 溶接施工
（イ）エンドタブ
・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
・エンドタブの長さは、ＭＣ:35mm以上
ＮＧＣ,ＧＣ:40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする。



・プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
（ロ）裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
（ハ）スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。
（ニ）ノンスカラップ工法



（ホ）裏はつり
現準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
（へ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を痛めない様に養生を行う。

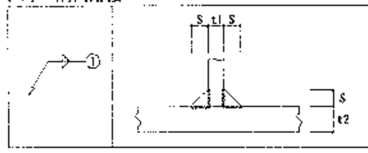
（5）塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2．溶接規準図

（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 （単位mm）

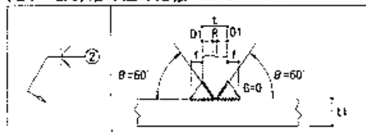
（1）隅肉溶接



t≦16				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・tはt1, t2の小なる方とする。
余盛は(1+0.15)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

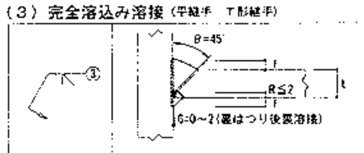
（2）部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16＜t≦40
溶接姿勢	F.V

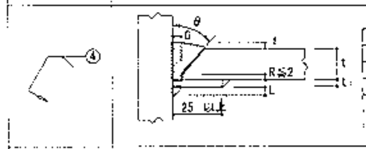
（3）完全溶込み溶接（平継手 T形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

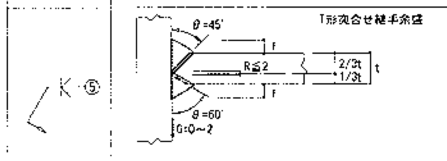
t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

＊ＡＡＧ



t/4 ≦ f ≦ 10

	MC	NGC			GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t＜16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							



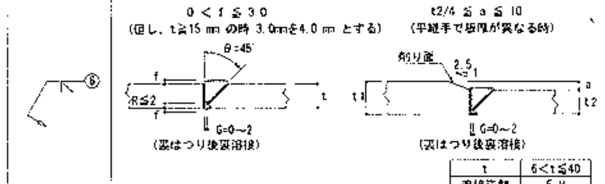
T形突合せ継手余盛 t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
19＜t≦40	4
溶接姿勢	F.V

＊ＡＡＧ

0 ＜ f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする)

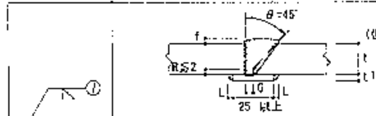
t2/4 ≦ a ≦ 10
(平継手で板厚が異なる時)



t	6＜t≦40
溶接姿勢	F.V

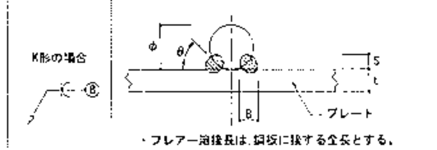
＊ＡＡＧ

0 ＜ f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時3.0mmを4.0mmとする)



	MC	NGC			GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19＜t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

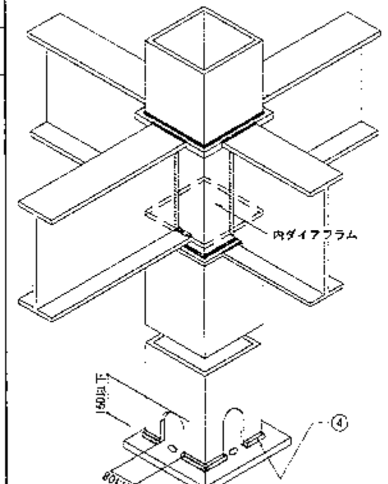
（4）フレアー溶接



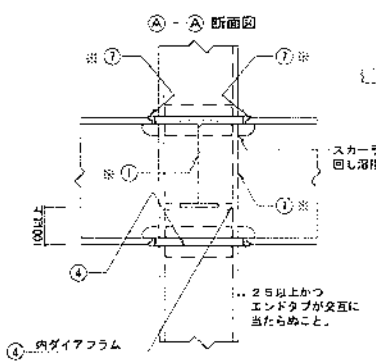
寸法 (mm)		
Φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上, 19 mm以上は2パス以上とする。
溶接拘角度θは30°～40°とする。

●BOX型（通しダイアフラムの場合）

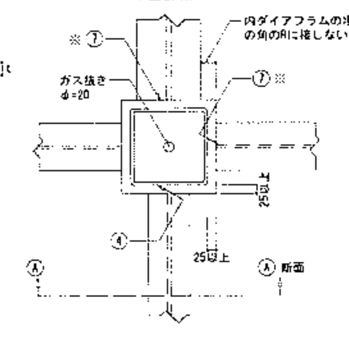


Ⓐ－Ⓐ 断面図



⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

平面詳細



① ※ t>16 mm 場合の溶接は,② ・又は③～⑤とする。

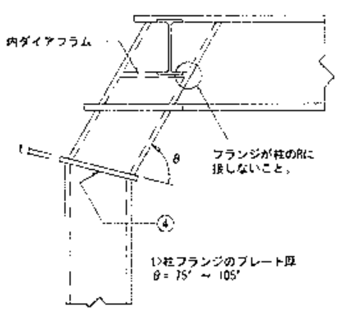
ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
＜ 柱材料 BCR295, BCP325を使用する場合 ＞
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C SN490B
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C を使用する。

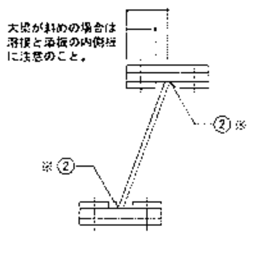
●鋼材種別による溶接条件 溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類		規格	溶接材料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	40 以下	350 以下
			YGW18, YGW19	30 〃	450 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 〃	450 〃
		JIS Z 3211	E43xx, E49xx	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30 〃	250 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
		JIS Z 3211	E49xx	40 〃	350 〃
冷間成形角形鋼管	400N級炭素鋼 BCR295, BCP235 STKR400	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼 BCP325 STKR490	JIS Z 3312	YGW18, YGW19	30 〃	250 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

注）ロボット溶接の場合（一社）日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。
490N/mm² を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。
ガスシールドアーク溶接法による完全溶け込み溶接部に適用する。

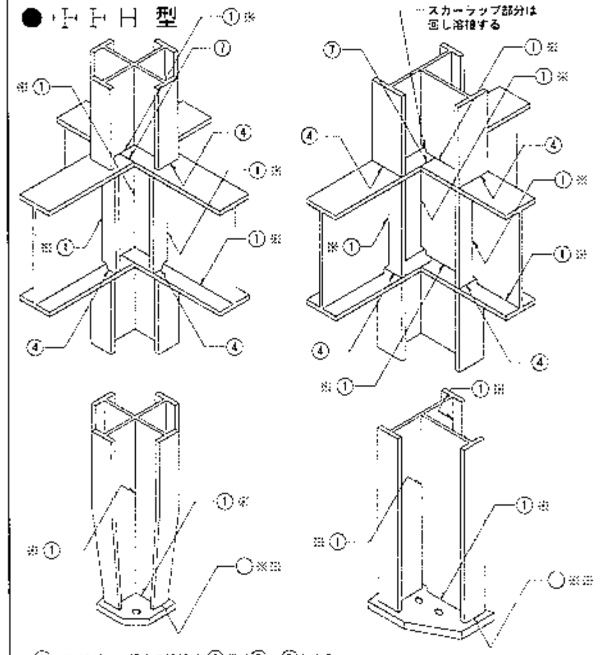
● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合





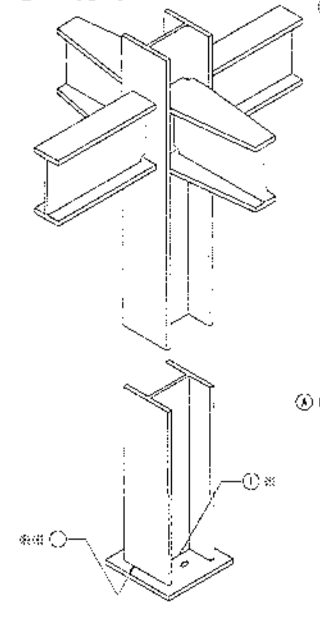
② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

● H H H 型

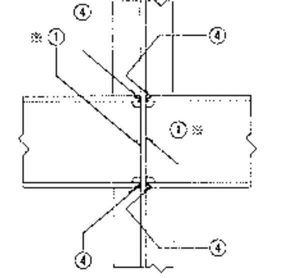


① ※ t>16 mm 場合の溶接は,② 又は③～⑤とする。
○ ※ ※ 印は設計者が記入すること。

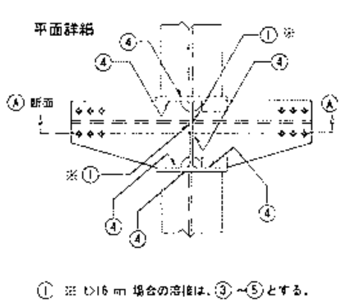
●B.H方式



Ⓐ－Ⓐ 断面図



平面詳細



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

構造設計 株式会社 佐瀬設計 一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士 第4646号 一級建築士 No.128187 佐瀬 光一

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図 名	鉄骨構造標準図－１		
縮 尺	－	番 号	63 枚の内 SH06 号
設 計 年 月 日	令和７年３月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

2021年12月1日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄骨構造標準図（2）

※修正箇所は下線を引くこと

3．継手規準図，その他

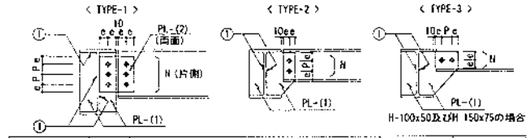
（1）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（P）　ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

	呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離 (a) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト（ボルト）	M16	21（16.5）		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25（20.5）		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27（22.5）		36	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29（24.5）		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径＋5		9d/5	4d/3			

（注）内はボルトを示す

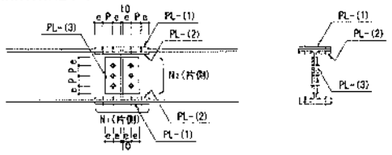
（注）(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁，機械仕上縁の場合の縁端距離。

（2）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N－径
	3	H－125・60・6・8	6		2－M16
	3	H－150・75・5・7	6		2－M16
	2	H－175・90・5・8	6		2－M16
	2	H－200・100・5.5・8	6		2－M16
	2	H－250・125・6・9	6		3－M16
	2	H－300・150・6.5・9	9		3－M20
	2	H－350・175・7・11	9		4－M20
	1	H－350・175・7・11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8・13	9		5－M20
	1	H－400・200・8・13	9	9	4－M20

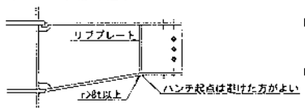
（3）剛接合梁継手リスト（SCSS-H97による）



（注）補強を用とする場合の部材は設計図による。

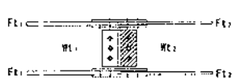
符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1－径	ウエブ PL-(3)	N2－径

（4）ハンチ部の継手



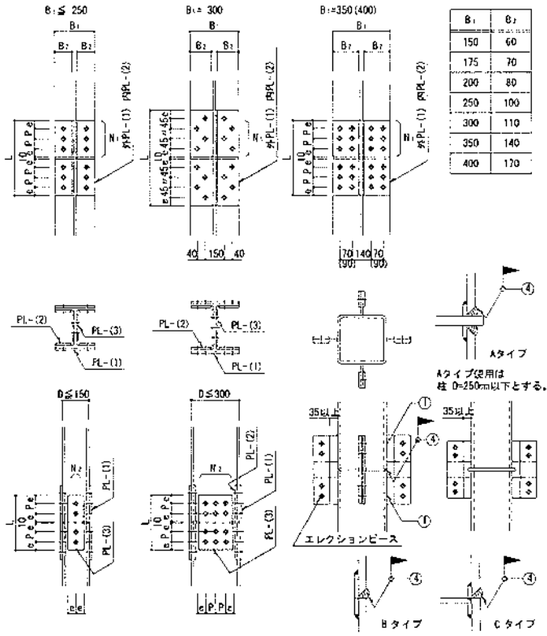
ハンチ勾配は普通1.4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

フランジ及ウエブ厚の差のある場合



Ft1－Ft2
Wt1－Wt2：≧1mm　フィラプレート併用の事

（5）柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1－径	ウエブ PL-(3)	N2－径

（6）ターンバックルブレース（JIS規格品とする … JIS A 5540 … 2003 / 5541 … 2008）

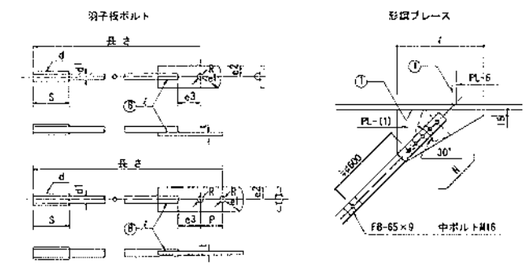
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0 -0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小）	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小） (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小） (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト縁から取付ボルト穴芯のあき（最小）		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）		W	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種類		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T) (3)						
	ねじの呼び		M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

（注）(1) e1,e2が確保されれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F8T相当のものを使用する。

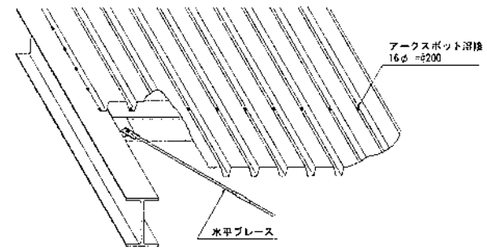
(b) 形鋼ブレース

符号	部材	PL-(1)	N－径	ℓ

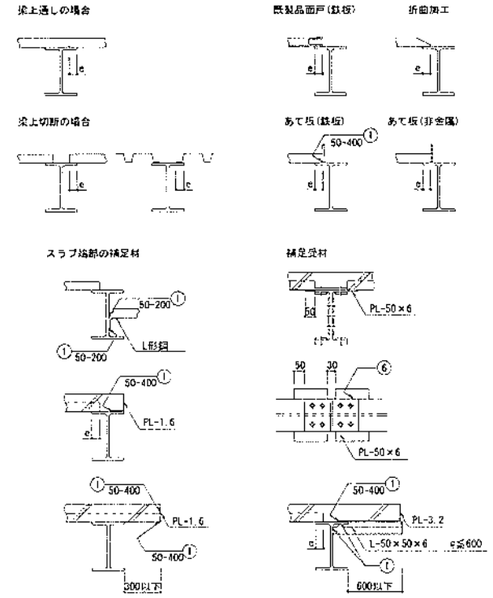


（7）デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

梁との溶接およびコネクター

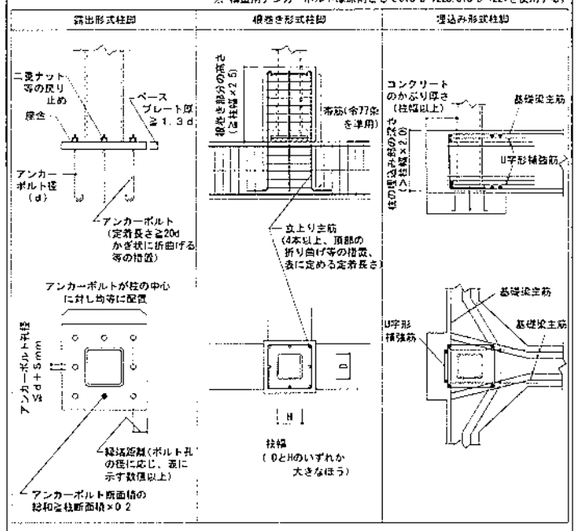


受梁へのかかり寸法及処理　e：長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様による。



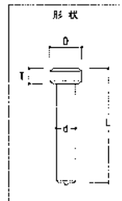
（8）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※）構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。



（9）頭付きスタッド（JIS B 1198 - 2011）

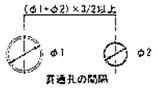
スタッド材の標準形状・寸法

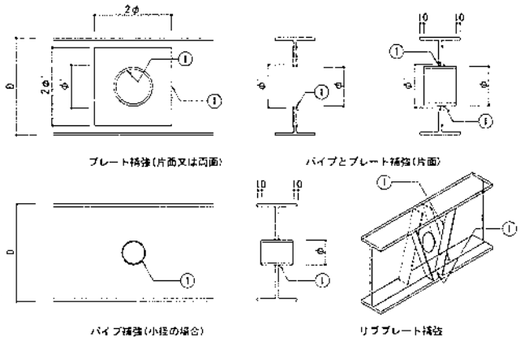


スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
φ13 mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
φ16 mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
φ19 mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
φ22 mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
φ25 mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置、寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部（内法スパン ℓ0 の1/10以内かつ、20以内）は避ける。
・φ≦0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す。





プレート補強の板厚

スリーブ径	補強板
φ≦0.15D	補強板不要　(計算で安全性の確認を行う)
φ≦D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦0.4D	Web板厚以上（両面）

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図名	鉄骨構造標準図－2		
縮尺	－	番号	63 枚の内 SH07号
設計年月日	令和7年3月		
設計	(有)夢太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
	高　山　市		

構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－6)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）本標準図は、コンクリートの設計基準強度Fc18～Fc27の壁式鉄筋コンクリート造建物に適用する。

（３）記号

d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値　D…部材の成　R…直径

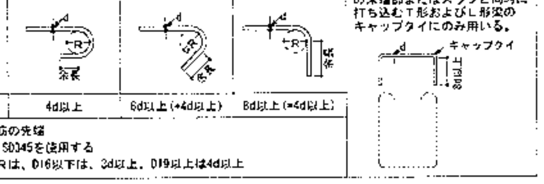
@…間隔　r…半径　℄…中心線　ℓo…部分間の内法距離　ho…部材間の内法高さ

ST…あばら筋　HOOP…帯筋　S HOOP…補強帯筋　φ…直径

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(≠4d以上)	8d以上(≠4d以上)



折まげ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。

＊片持スラブ上端筋の先端
鉄筋は、SD295、SD345を使用する
折曲げ内法寸法Rは、D16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

（２）鉄筋中間部の折曲げ形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下

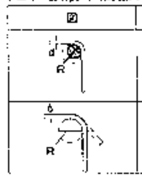


図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D25	4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295 SD345	D16以下	4d以上
			D19～D25	6d以上

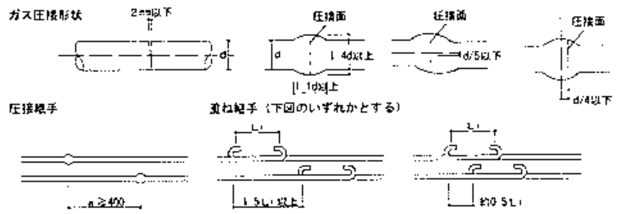
（３）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通コンクリート設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ 一般 (L_2)	下ば筋 (L_3) 小梁	下ば筋 (L_3) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
SD295 SD345	21 24 27	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 150mm 以上	40d または 30d フックつき
	18	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

コンクリートは普通Fc=18N/mm² 以上27N/mm² 以下

継　手

1．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする



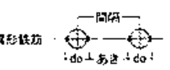
（４）かぶり厚さ　（単位：mm）

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ・床スラブ・非耐力壁	20＊	30＊
耐力壁・壁梁・小梁	30＊	40＊
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分 基礎つなぎ梁	40	50
基礎（捨コンクリート部分は除く）	60	70

（注）＊　屋外で耐久性上有効な仕上げのない場合、10mm増しとする。

（５）鉄筋のあき

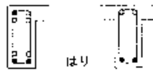
a　異形鉄筋では呼び名に用いた数値の1.5d以上
b　粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上



（６）鉄筋のフック（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

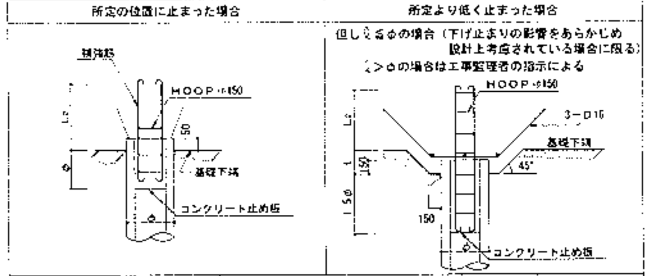
＊印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

a　壁長が１m以下の壁横筋の末端　b．あばら筋、帯筋　c．煙突の鉄筋
d　柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e．単純梁の下端筋
f．その他、本配筋標準に記載する箇所



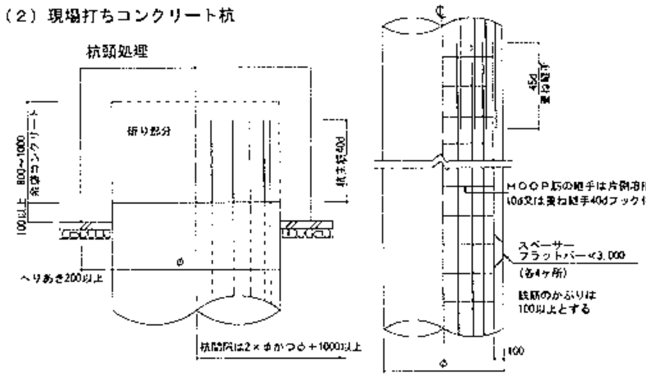
３．杭　（地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。）

（１）ＰＲＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う



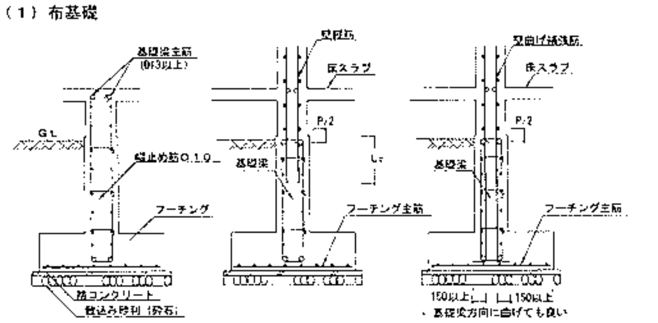
杭径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6－D13	8－D13	10－D13	8－D16	10－D16
HOOP	D10-@150				

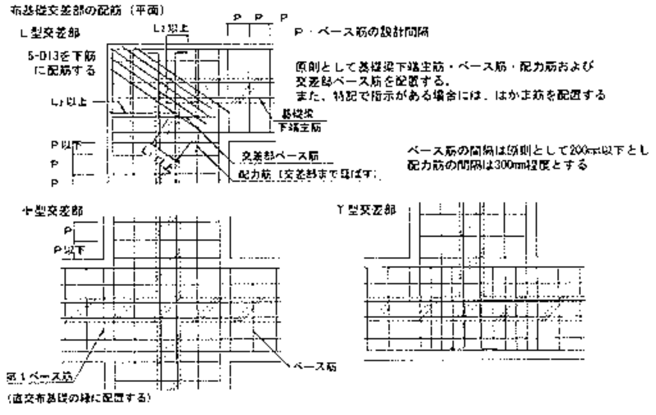
（２）現場打ちコンクリート杭



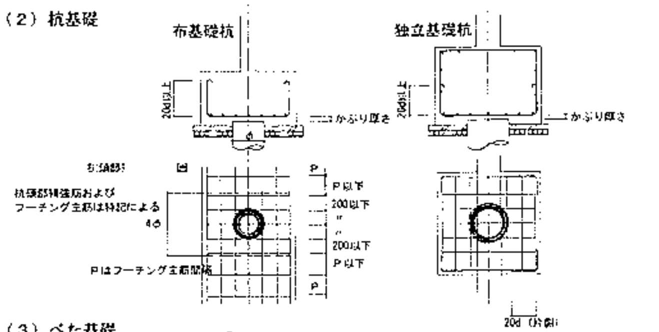
４．基　礎

（１）布基礎

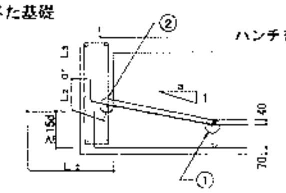




（２）杭基礎



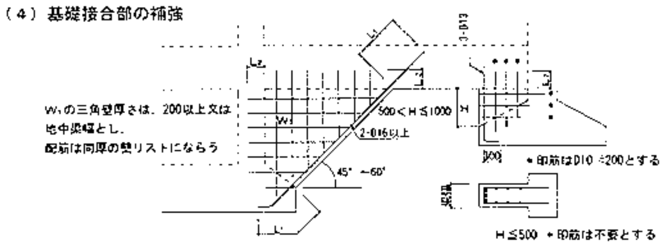
（３）べた基礎



ハンチを付けた場合（a≧3）

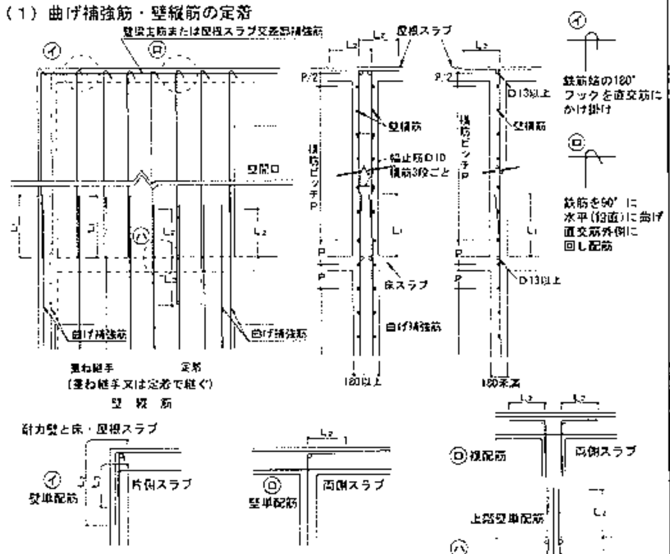
1．耐圧版鉄筋の継手位置は８－（１）床スラブを参考とする。但し上筋と下筋を読みかえる
2．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3．②の鉄筋はD13以上
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（４）基礎接合部の補強

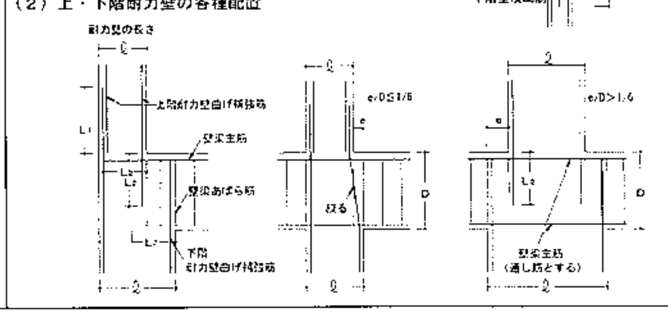


５．耐力壁

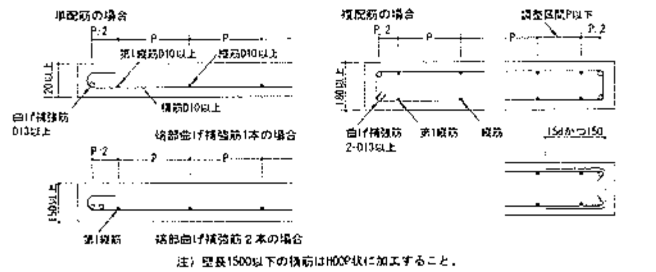
（１）曲げ補強筋・壁縦筋の定着



（２）上・下階耐力壁の各種配置



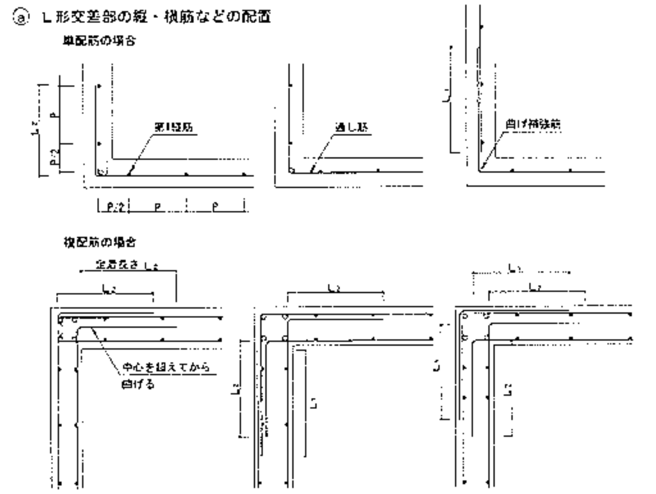
（３）耐力壁の縦・横筋の配置



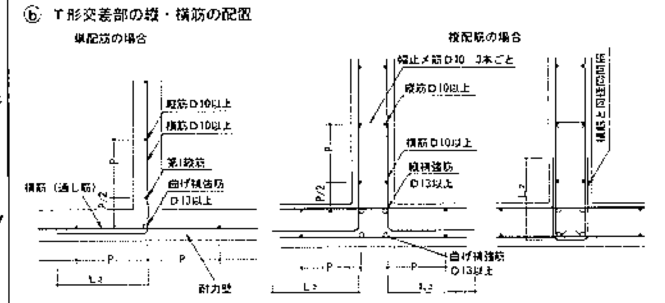
注）壁長1500以下の横筋はHOOP状に加工すること。

（４）耐力壁が交差する場合（平面）

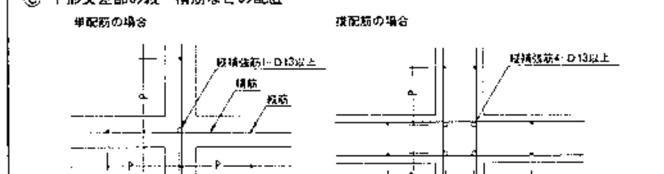
ⓐ L形交差部の縦・横筋などの配置



ⓑ T形交差部の縦・横筋の配置



ⓒ 十形交差部の縦・横筋などの配置



６．使用可能な鉄筋の最大径（標準）

構造種別＼部位	耐力壁	壁梁 がりょう 小梁	布基礎 基礎 基礎梁	スラブ	非耐力壁	階段
壁式鉄筋コンクリート造	D22	D22	D25	D16	D16	D16

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図名	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図－１		
縮尺	－	番号	63 枚の内 SH08 号
設計年月日	令和７年３月		
設計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高山市			

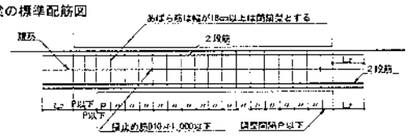
構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

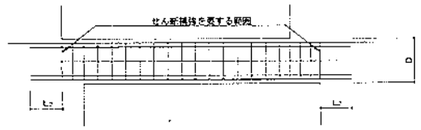
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）※修正箇所は下線を引くこと

7．壁梁、小梁

（１）壁梁の標準配筋図

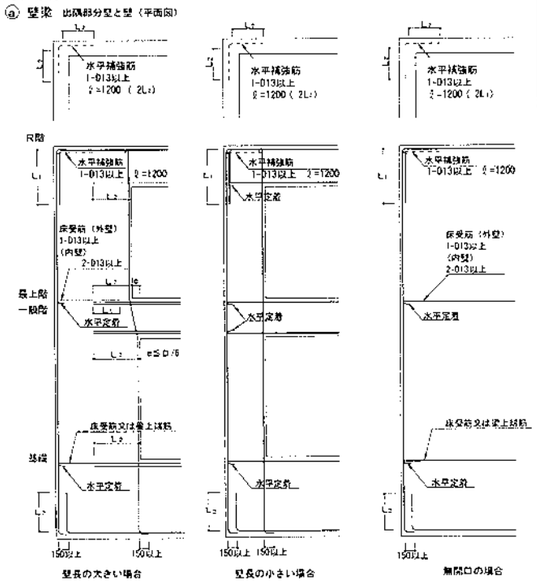


（２）壁梁の範囲



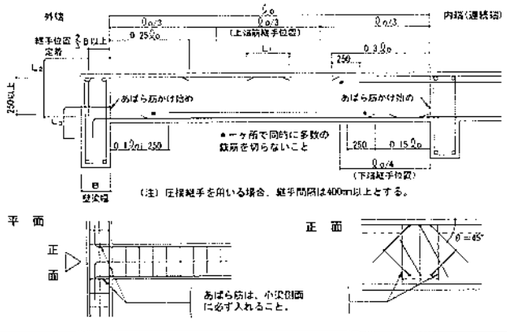
（３）定着

ⓐ 壁梁　出隅部分壁と壁（平面図）



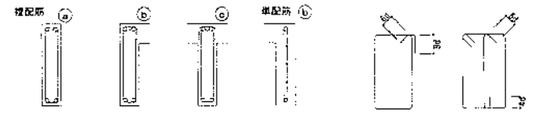
※梁主筋の重ね継手は原則として梁中間部に設けない。

ⓑ 小梁の定着・継手位置およびトップ筋長さ



（注）圧接継手を用いる場合、継手間隔は400mm以上とする。

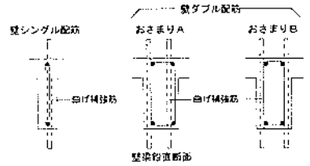
（４）あばら筋の型

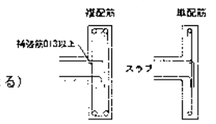


（イ）原則としてⓐのフック先曲とする。
片側床版付（L型）梁でⓑ、
両側床版付（T型）梁でⓒとすることができる。
（ロ）フックの位置はⓐにあっては交互、
ⓑにあってはスラブ側とする。

（５）壁梁と壁のおさまり（詳細は標準図の解説による）

壁梁の幅は斜力壁の厚さ以上とする。





壁梁の最小寸法（構造体寸法）（単位mm）

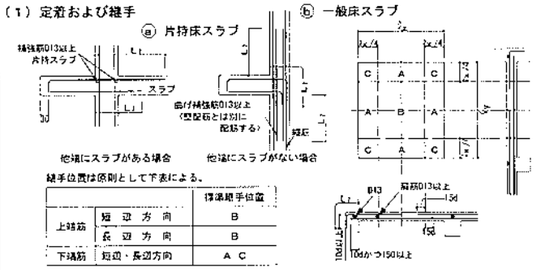
おさまり	はり主筋	曲げ補強筋 D13	曲げ補強筋 D16	おさまり	はり主筋	曲げ補強筋 D13	曲げ補強筋 D16
A	D13	180	180	B	D13	190	200
	D16	180	190		D16	200	200
	D19	190	200		D19	210	210

（注）かぶり厚さ40mmの場合
粗骨材の最大寸法20mm

8．床版

（１）定着および継手

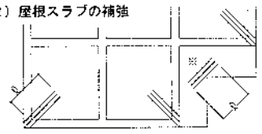
ⓐ 片持床スラブ　　ⓑ 一般床スラブ



継手位置は原則として下表による。

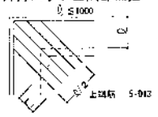
		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

（２）屋根スラブの補強



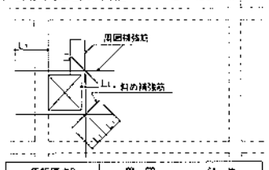
ⓐ補強筋は各1-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ※印の箇所（入隅）は各階補強する

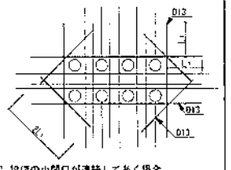
（３）片持スラブ出隅部補強



ℓ>1000および片持ちスラブと屋内側スラブに段差がある場合の補強筋は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3) Ⅱ 床版(3)(b)による。

（４）床版開口部の補強（開口の径600程度の場合）



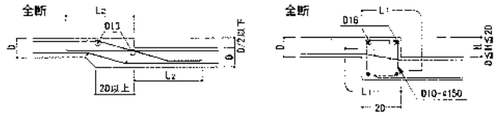


床版厚さD	周囲	斜め
D ≦ 150	上・下各2-D13	1-D13
150 ＜ D ≦ 200	上・下各2-D13	1-D13

周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

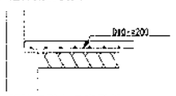
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差

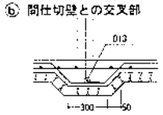


（６）土間コンクリート

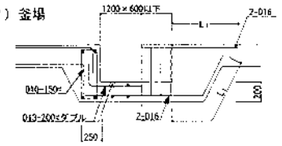
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部

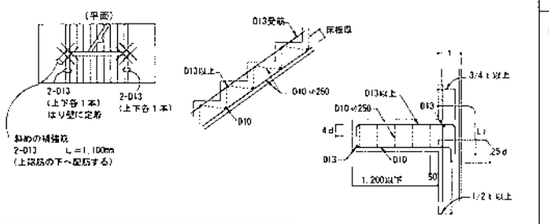


（７）釜場



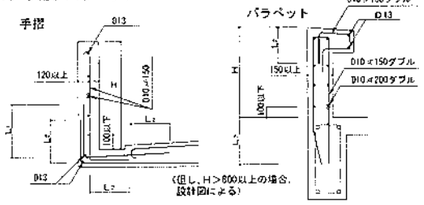
9．階段

片持ち階段



10．その他

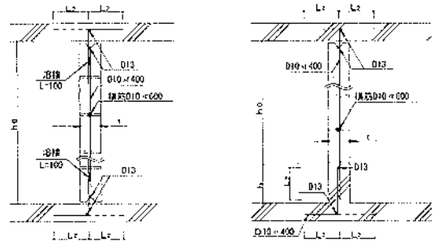
（１）手摺、パラペット



（但し、H>800以上の場合、設計図による）

（２）コンクリートブロック塀

一般の場合　　下部防水立上りのある場合



注）h≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦h≦400
注）鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること

11．梁貫通孔補強（計算により安全性を確認すること）

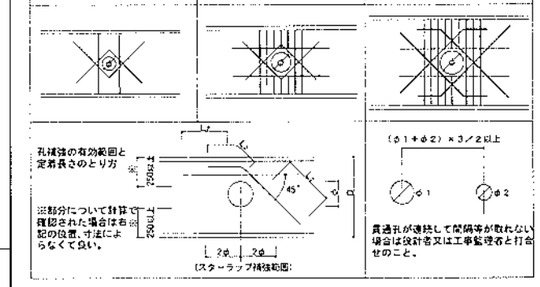
（１）既製品（使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

□リング型　□パイプ型　□金網型　□プレート型

（２）鉄筋標準配筋　　但しφ≦D／3とする

設置可能範囲　梁端部から梁せい(D)以内は避ける

80≦φ≦100	100＜φ≦150	150＜φ≦250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13)
縦筋 ST 2-D13 @100	縦筋 ST 2-D13 @50	縦筋 ST 2-D13 @50
	横筋 2-(2-D13)	横筋 2-(2-D13)
	上下縦筋 ST 2-D13 @50	上下縦筋 ST 2-D13 @50



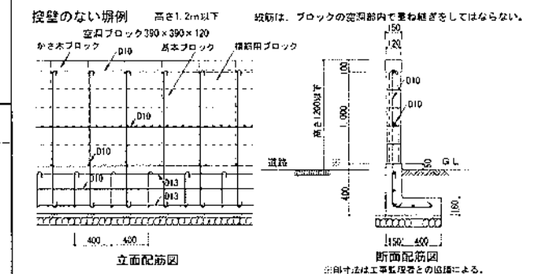
貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

12．コンクリートブロック塀

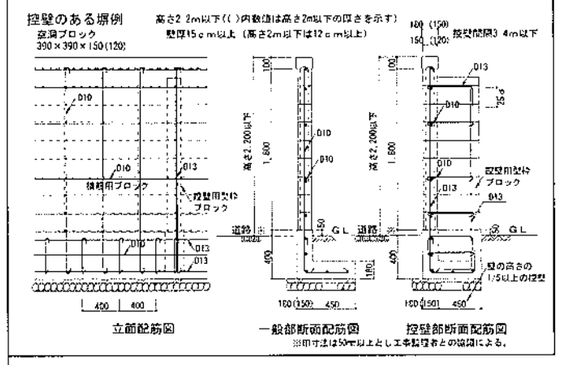
（１）ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造

a．塀の高さ（地盤面に高低差のある場合は低い方による）は2.2m以下。
b．塀の厚さは、塀の高さ2m以下の場合は12ｃｍ以上、2mを超える場合は15ｃｍ以上。
c．地盤が液状化の恐れのある砂質土及び軟弱土の場合は、別途検討する。
d．鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。

控壁のない塀例　高さ1.2m以下　　縦筋は、ブロックの空洞部内で重ね継ぎをしてはならない。



控壁のある塀例　　高さ2.2m以下（（ ）内数値は高さ2m以下の厚さを示す）
壁厚15ｃｍ以上（高さ2m以下は12ｃｍ以上）



工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図－２		
縮　尺	－	番　号	63 枚の内 SH09号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門　秀樹		
	高　山　市		

構造設計　株式会社 佐瀬設計　　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

梁貫通孔補強材　　ＭＡＸウエブレン設計・施工標準仕様書（参考図）　BCJ評定-RC0097-07

１．一般事項

（１）本仕様書は、ＭＡＸウエブレンの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

（２）本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説　ＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事」による。

２．適用範囲

（１）使用材料

コンクリートと鉄筋の使用材料と組み合わせは以下とする。

コンクリート：Ｆｃ=21～60N/mm²

鉄筋(あばら筋)：SD295,SD345,SD390,

685N/mm² 級鋼,785N/mm² 級鋼,1275N/mm² 級鋼

ＭＡＸウエブレン：785N/mm² 級せん断補強筋ストロングフープ用棒鋼

（２）開孔径及び位置

ａ）開孔径（Ｈ）

あばら筋に普通鉄筋を用いる梁　　100mm≦Ｈ≦750mm

あばら筋に高強度鉄筋を用いる梁　　100mm≦Ｈ≦450mm

開孔の形状は円形とし、梁成の1/3以下とする。（下図参照）

ｂ）開孔中心間距離（Ｌ）

開孔中心間距離は、隣り合う開孔径の平均の3倍以上とする。（下図参照）

ｃ）柱際から開孔中心までの距離（Ｌ'）

柱面及び直交する大梁面から梁成以上離すこととする。（下図参照）

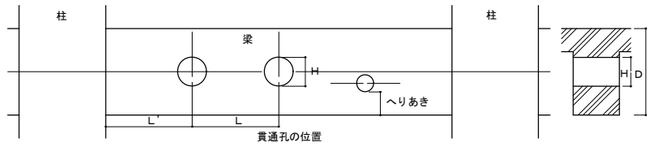
ｄ）へりあき最小寸法

へりあきの最小寸法は、「建築工事共通仕様書（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）」により以下とする。

梁成　500mm≦Ｄ＜700mm　　へりあき　175mm

梁成　700mm≦Ｄ＜900mm　　へりあき　200mm

梁成　900mm≦Ｄ　　へりあき　250mm



貫通孔の位置

３．標準配筋図

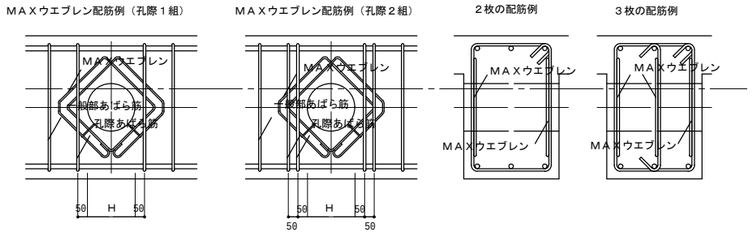
（１）ＭＡＸウエブレンの取り付け位置

ＭＡＸウエブレンはあばら筋の内側に取り付ける。

３枚以上の場合は中子筋に取り付ける。（下図参照）

（２）孔際あばら筋

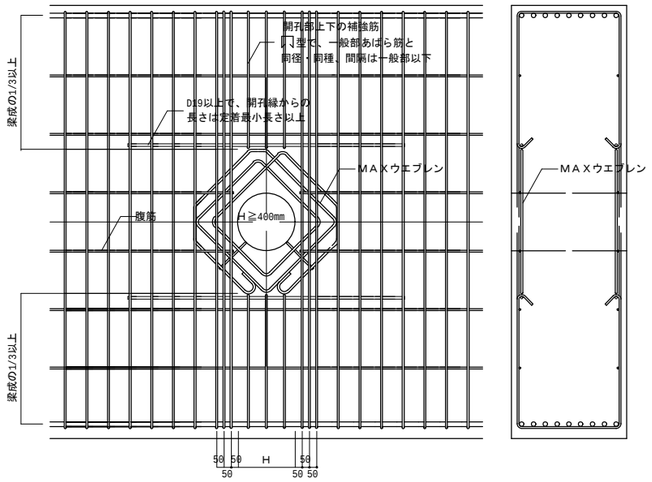
孔際あばら筋は、原則として一般部あばら筋と同種,同径,同本数とし、開孔部の両側に1組以上配置する。位置は開孔縁から50mmとし、複数組配置する場合は間隔を50mmとする。（下図参照）



４．大開孔の補強方法

開孔径が400mm以上で主筋とＭＡＸウエブレンの最外位置との間隔が梁成の1/3以上となる場合は下図に示す補強を行う。

なお、この補強が必要となる条件は(財)日本建築センターの評定時に指導された最低基準(必ず厳守する基準)であるので、開孔位置等の状況で図に示す数値以下であっても補強が必要となる場合があるので設計担当者と協議する必要がある。



５．施工要領

（１）標準的な施工順序

ａ）ＲＣ造（下図参照）

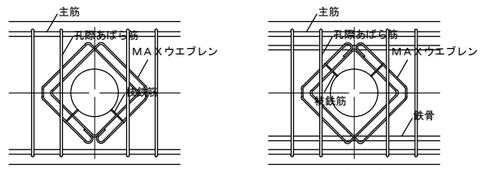
①　型枠に開孔位置の芯出しを行う。

②　ＭＡＸウエブレンをあばら筋内に挿入し、枝鉄筋を下部または上部にして所定の位置に結束する。

ｂ）ＳＲＣ造（下図参照）

①　あばら筋の配筋前に鋼管スリーブにＭＡＸウエブレンを引っ掛けておく。

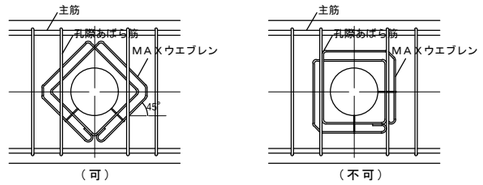
②　あばら筋を配筋後、枝鉄筋を下部または上部にして所定の位置に結束する。



（RC造の場合）　（SRC造の場合）

（２）ＭＡＸウエブレンを取り付ける向き（下図参照）

ＭＡＸウエブレンはあばら筋に対して環状鉄筋が45°の向きになるように取り付ける。

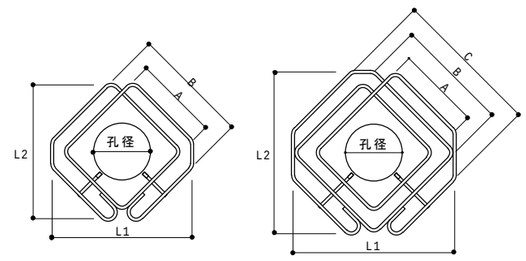


（可）　（不可）

６．ＭＡＸウエブレン標準寸法表

孔径 ＼ タイプ		S6-2R	S8-2R	S10-2R	S13-2R	S16-2R	S16-3R
100φ	A	175	180	200	220	240	240
	B	247	276	320	363	416	400
	C						576
	L１	308	334	382	403	453	568
	L２	282	300	345	376	420	568
125φ	A	200	205	225	245	265	265
	B	272	301	345	388	441	425
	C						601
	L１	342	369	417	438	488	601
	L２	317	335	380	411	455	601
150φ	A	230	230	250	270	290	290
	B	302	326	370	413	466	450
	C						626
	L１	386	405	453	474	523	636
	L２	360	370	415	447	490	636
175φ	A	255	255	275	295	315	315
	B	327	351	395	438	491	475
	C						651
	L１	420	440	488	509	559	672
	L２	395	405	450	482	526	672
200φ	A	280	280	300	320	340	340
	B	352	376	420	463	516	500
	C						676
	L１	456	475	524	544	594	707
	L２	430	440	485	517	561	707
250φ	A		330	350	370	390	390
	B		426	470	513	566	550
	C						726
	L１		546	594	615	665	778
	L２		510	555	588	632	778
300φ	A		385	400	420	440	440
	B		481	520	563	616	600
	C						776
	L１		624	665	685	735	849
	L２		590	625	659	702	849
350φ	A		435	450	470	490	490
	B		531	570	613	666	650
	C						826
	L１		694	736	757	806	919
	L２		660	695	730	773	919

孔径 ＼ タイプ		S10-2R	S13-2R	S16-2R	S16-3R
400φ	A	500	520	540	540
	B	620	663	716	700
	C				876
	L１	806	827	877	990
	L２	765	800	844	990
450φ	A	550	570	590	590
	B	670	713	766	750
	C				926
	L１	877	898	948	1061
	L２	835	871	915	1061
500φ	A	600	620	640	640
	B	720	763	816	800
	C				976
	L１	948	969	1018	1131
	L２	905	942	985	1131
550φ	A	650	670	690	690
	B	770	813	866	850
	C				1026
	L１	1018	1039	1089	1202
	L２	975	1012	1056	1202
600φ	A	700	720	740	740
	B	820	863	916	900
	C				1076
	L１	1089	1110	1160	1273
	L２	1045	1083	1127	1273
650φ	A	750	770	790	790
	B	870	913	966	950
	C				1126
	L１	1160	1181	1230	1344
	L２	1115	1154	1197	1344
700φ	A	800	820	840	840
	B	920	963	1016	1000
	C				1176
	L１	1231	1252	1301	1414
	L２	1185	1225	1268	1414
750φ	A	850	870	890	890
	B	970	1013	1066	1050
	C				1226
	L１	1301	1322	1372	1485
	L２	1255	1295	1339	1485



同等以上の工法とする。変更する場合は協議すること。

又、計画通知の変更等は施工者負担にて行うこと。

構造設計　株式会社 佐瀬設計　　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	鉄筋コンクリート貫通孔補強標準図（参考図）		
縮　尺	―	番　号	63 枚の内 SH10号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門　秀樹		
高　山　市			

鉄骨梁貫通孔補強工法

フリードーナツ®エイト 工法標準図（参考図）

本標準図に記載のない事項は下記による。

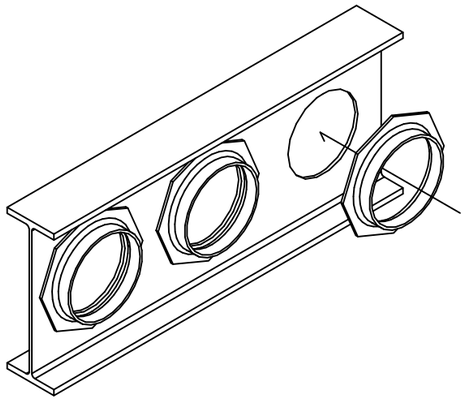
・建築基準法・同施行令・国土交通省告示等
・日本工業規格（JIS）
・鋼構造設計規準　-許容応力度設計法-　2005年改定版（日本建築学会）
・建築工事標準仕様書・同解説　JASS6鉄骨工事　2018年改定版（日本建築学会）
・鉄骨工事技術指針・工事現場施工編　2018年改定版　（日本建築学会）
・鉄骨工事技術指針・工場製作編　2018年改定版　（日本建築学会）
・（別紙第1）グレード別の適用範囲と別記事項（日本鉄骨評価センター）

1. 工法概要

フリードーナツエイト（以下、本工法）は、鉄骨梁のウェブ貫通孔を専用のBRリング（貫通孔補強金物）を用いて補強する工法である。

本工法は、ウェブ貫通孔に立上りを有するBRリングを密着させた後、BRリング外周部と梁ウェブとを隅肉溶接することでBRリングと梁とを一体化させウェブ貫通孔を補強する。

本工法には、呼び径としてφ100からφ400までの貫通孔径に対応したBRリングが部品化されている。



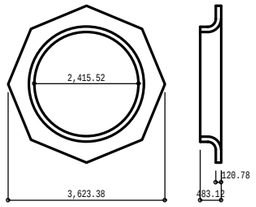
注）　本工法は、横補剛が必要な梁の横補剛を不要とするものではない。

2. 構成部品

[2.1] BRリング材質

SN-BR490B（F値325N/mm²）	【法第37条認定材料】 国土交通大臣認定　MSTL-0504

[2.2] BRリング形状



[2.3]　フリードーナツエイト構成部品一覧

単位（ mm）

製品記号	呼び径 d	BRリング 重量 (kg)	内径 (d)	外径 Dr	板厚 t	高さ h	枚数 (枚)
BR100K	100	0.6	100	160	6	17	1
BR125K	125	0.7	125	187	6	20	1
BR150K	150	0.9	150	215	6	22	1
BR175K	175	2.1	175	260	9	28	1
BR200K	200	2.5	200	288	9	30	1
BR225K	225	3.0	225	319	9	32	1
BR250K	250	3.8	250	356	9	35	1
BR275K	275	4.3	275	384	9	37	1
BR300K	300	4.9	300	412	9	40	1
BR350K	350	6.6	350	477	9	44	1
BR400K	400	8.4	400	542	9	48	1

3. 適用範囲・使用条件

[3.1]　梁の材質・寸法に関する規定

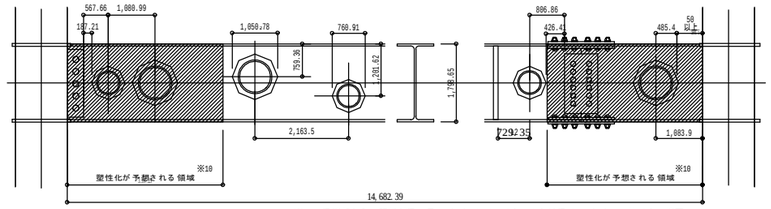
項目	適用範囲
材質	F値325N/mm² 以下※1
梁せい（D）	1800mm以下
梁ウェブ厚	32mm以下
幅厚比	制限なし
孔径比　（d※2／D※3）	0.6以下
塑性化が予想される領域に設けることができる貫通孔の数	2箇所まで ただし、FC,FDランクの梁で、塑性化が予想される領域に貫通孔を設けることはできない。

※1　適用する梁材の材質
・一般構造用圧延鋼材（SS400、SS490）
・溶接構造用圧延鋼材（SM400A、SM400B、SM400C、SM490A、SM490B、SM490C）
・建築構造用圧延鋼材（SN400A、SN400B、SN400C、SN490B、SN490C、SN490C-TMC）
・建築構造用TMCP鋼材（TMCP325B、TMCP325C）
※2　d：フリードーナツエイトの呼び径（mm）
※3　D：梁せい（mm）
※4　Dr：BRリングの外径（mm）

[3.2] 取付け位置に関する規定

項目	適用範囲
L1：梁端からBRリング中心までの距離	50mm+0.47×Dr※4 以上※5
L2：ウェブスプライスプレート端およびガセットプレート端からBRリング中心までの距離	30mm+Dr※4/2以上
L3：隣り合うBRリングの梁材軸方向中心間距離	MAX[1.5×(d1※2+d2※2)/2,50mm+0.47×(Dr1※4+Dr2※4), 30mm+(Dr1+Dr2)/2]以上
e1※6：梁天端からBRリング中心までの距離	(tf※7+r※8)+(Dr/2+a※9)≦e1≦(D※3-tf-r)-(Dr/2+a)

※5　梁の応力状態によって、これ以上の距離が必要になる場合がある。
梁の応力に対する検討は、旭化成建材の検討サービス利用のこと。
※6　梁の応力状態によって、e1の変更が必要になる場合がある。
梁の応力に対する検討は、旭化成建材の検討サービス利用のこと。
※7　tf：梁フランジ厚（mm）
※8　r：フィレット（mm）
※9　a：BRリングとH形鋼フィレットとの間隔（mm）
BR100K～BR150K：a＝7.5
BR175K～BR300K：a＝9
注）　梁に軸力が作用する場合は使用不可とする。
注）　梁の材軸に対し鉛直方向（梁せい方向）に複数の貫通孔は不可とする。



※10　梁端部からの距離が梁の長さ（L）の1/10以内、または梁せい（D）の2倍以内の範囲。

4. 施工

[4.1]　保守管理

入荷したBRリングは、他工事のものと混入しないように置場を定め、曲がりや変形に注意し、台上に整理整頓して保管する。

[4.2]　資格

（1）溶接作業の品質を管理する溶接技術者は、鉄骨製作管理技術者2級またはWES2級の資格を有する経験者とする。
（2）溶接技能者はJIS Z 3841に規定された半自動溶接技術検定試験の種類による下向（SA-2F、SA-3F）の資格を有する者とする。

[4.3]　溶接材料及び溶接条件

溶接材料及び溶接条件の標準は下表の通りする。

規格	種類	ワイヤ径 (mmφ)	アーク電圧 (V)	アーク電流 (A)
JIS Z 3312	YGW11 YGW18	1.2,1.4	28～40	280～360

[4.4]　溶接の注意点

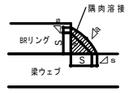
（1）溶接姿勢は下向きとする。
（2）溶接部は溶接に先立ち、水分、ごみ、さび、油、塗料などの溶接に支障のあるものを取り除く。
（3）気温-5℃未満の場合は溶接を行わない。
（4）予熱は梁ウェブの材質により以下の指針に準拠して行う。
TMC鋼　：（別紙第1）グレード別の適用範囲と別記事項（日本鉄骨評価センター）
その他　：鉄骨工事技術指針・工場製作編（日本建築学会）
（5）BRリングと梁ウェブの隙間（肌すき）の許容差は、BRリング外周部において1mm以内とする。またBRリングと貫通孔中心のずれの許容差は2mm以内とする。

[4.5]　組立て溶接

（1）BRリング外周に組立て溶接を行う。
（2）組立て溶接は、等間隔に3～4箇所、1箇所の長さは40mm以上、1パスとしショートビードにならないように注意する。

[4.6]　本溶接

（1）本溶接はBRリング外周の全周隔肉溶接とし、各BRリング部材それぞれに定められた必要隔肉溶接サイズ(S)以上の溶接を行う。
（2）必要隔肉溶接サイズ(S)の許容差(⊿s)および余盛の高さ許容差(⊿a)は、0≦⊿s、0≦⊿aとする。

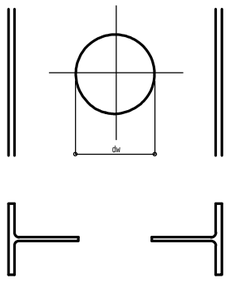


各仕様の隅肉溶接サイズは下記表の通り。
なお、BRリング板厚6mmにおいて、BRリング板厚同程度の隅肉溶接サイズも可とする。

製品記号	呼び径 d	隅肉溶接サイズ (mm)
BR100K	100	4以上
BR125K	125	4以上
BR150K	150	4以上
BR175K	175	5以上
BR200K	200	5以上
BR225K	225	5以上
BR250K	250	5以上
BR275K	275	5以上
BR300K	300	5以上
BR350K	350	5以上
BR400K	400	5以上

[4.7]　施工手順

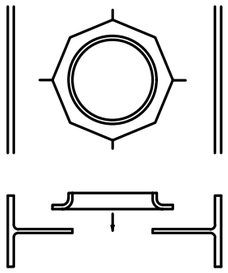
（1）梁ウェブの孔あけ



BRリングの取付け位置を確認し、ウェブにケガキし下孔をあける。
注）下孔まわりのバリをグラインダー等で取り除き、BRリングとの接触面の浮きさび、汚れ等を除去する。

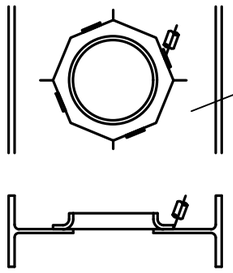
製品記号	下孔径基準値 dw（ mm）
BR100K	100
BR125K	125
BR150K	150
BR175K	175
BR200K	200
BR225K	225
BR250K	250
BR275K	275
BR300K	300
BR350K	350
BR400K	400
管理許容差	±2mm

（2）位置決め



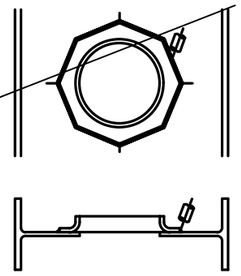
梁けがき線とBRリング外周角部を合わせる。
注）BRリングをシャコ万等を用いて梁ウェブに密着させる。

（3）組立て溶接



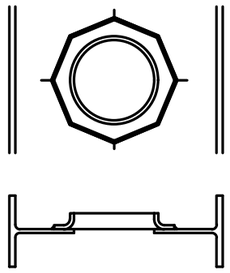
BRリング外周の3～4箇所に組立て溶接を行う。
注）ショートビードにならないこと。

（4）本溶接



BRリング外周を全周隅肉溶接する。
隅肉溶接は[4.6](2)に規定する必要隅肉溶接サイズ(S)以上を確保するよう行う。

（5）検査・完成



スラグ・スパッタを除去する。
目視にて外観検査を行う。

同等以上の工法とする。変更する場合は協議すること。

又、計画通知の変更等は施工者負担にて行うこと。

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	鉄骨貫通孔補強標準図（参考図）		
縮　尺	―	番　号	63　枚の内　SH11号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門　秀樹		
高　山　市			

構造設計　株式会社 佐瀬設計　　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

鉄骨構造標準接合部委員会SCSS-H97
建設省住宅局建築指導課監修

表GG 梁継手諸元表（1/18）

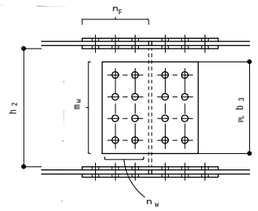
●梁継手（一般H形鋼）

400N級鋼

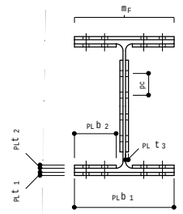
●鉄骨構造標準接合部委員会SCSS－H97
建設省住宅局建築指導課監修

継手呼称	断面寸法	径 D	フランジ ボルト $n_F \times m_F$	フランジ ゲージ g_1 mm	フランジ ゲージ g_2 mm	フランジ 外添板 厚×長さ mm mm	フランジ 内添板 厚×幅 mm mm	ウェブ ボルト $m_W \times n_W$	ウェブ ボルト P_G mm	ウェブ 添板寸法 厚×幅×長さ mm mm mm	継手性能 曲げモーメント M_y kNm	曲げモーメント $_dZ$ cm³	せん断力 Q_y kN	せん断力 $_dA_W$ cm²	保有耐力接合 M_u kNm	保有耐力接合 α_J	保有耐力接合 L_q m	横補剛 L_1 m	横補剛 L_2 m	継手呼称
GGF－4X－J－1010・0609－16	H－100×100×6×8	M16	2×2	56	－	16× 290	－	1×2	・－	9× 50×350	12.0	51.1	53.7	3.96	23.7	・1.17	0.58	4.23	1.62	GGF－4X－J－1010・0609－16
GGF－4X－J－1510・0609－16	H－148×100×6×9	M16	2×2	56	－	16× 290	－	1×2	－	6× 80×290	21.8	93.1	91.1	6.72	43.3	1.2	0.61	4.07	1.53	GGF－4X－J－1510・0609－16
GGF－4X－J－2010・0609－16	H－200×150×5.5×8	M16	2×2	55	－	16× 290	－	2×1	60	6×140×170	29.5	126.0	110.0	8.14	57.5	・1.19	0.67	3.81	1.00	GGF－4X－J－2010・0609－16
GGF－4X－J－2015・0609－16	H－194×150×6×9	M16	2×2	90	－	9× 290	9× 60	2×1	・60	6×140×230	49.6	211.0	113.0	8.40	93.7	1.3	0.95	6.20	1.74	GGF－4X－J－2015・0609－16
GGF－4X－J－2512・0609－16	H－250×125×6×9	M16	3×2	75	－	12× 410	－	2×2	90	6×170×290	56.0	238.0	159.0	11.76	103.0	1.2	0.81	4.80	1.13	GGF－4X－J－2512・0609－16
GGF－4X－J－2015・0609－20	H－194×150×6×9	M20	2×2	90	－	9× 290	9× 60	2×1	・60	6×140×230	46.5	198.0	107.0	7.92	87.9	1.2	1.01	6.20	1.74	GGF－4X－J－2015・0609－20
GGF－4X－J－2517・0612－20	H－244×175×7×11	M20	2×2	105	－	9× 290	9× 70	2×1	60	9×140×170	90.4	385.0	169.0	12.46	170.0	1.3	1.17	7.16	1.98	GGF－4X－J－2517・0612－20
GGF－4X－J－3015・0609－20	H－300×150×6.5×9	M20	2×2	90	－	9× 290	9× 60	2×1	120	6×200×170	85.0	362.0	209.0	15.47	163.0	1.2	0.93	5.60	1.13	GGF－4X－J－3015・0609－20
GGF－4X－J－3020・0912－20	H－294×200×8×12	M20	3×2	120	－	9× 410	9× 80	3×1	60	9×200×170	144.0	613.0	221.0	16.32	277.0	1.4	1.37	8.08	2.05	GGF－4X－J－3020・0912－20
GGF－4X－J－3517・0612－20	H－350×175×7×11	M20	2×2	105	－	9× 290	9× 70	3×1	90	6×260×170	140.0	598.0	248.0	18.34	258.0	1.2	1.25	6.73	1.38	GGF－4X－J－3517・0612－20
GGF－4X－J－3525・0916－20	H－340×250×9×14	M20	4×2	150	－	12× 530	12×100	3×2	60	9×200×290	248.0	1060.0	300.0	22.14	472.0	1.4	1.66	10.30	2.58	GGF－4X－J－3525・0916－20
GGF－4X－J－4020・0912－20	H－400×200×8×13	M20	3×2	120	－	9× 410	9× 80	4×1	60	9×260×170	225.0	959.0	310.0	22.88	409.0	1.3	1.52	7.76	1.63	GGF－4X－J－4020・0912－20
GGF－4X－J－4030・0916－20	H－390×300×10×16	M20	4×2	150	40	12× 440	12×110	4×1	60	9×260×170	374.0	1590.0	366.0	27.00	711.0	1.4	2.10	12.50	3.08	GGF－4X－J－4030・0916－20
GGF－4X－J－4520・0916－20	H－450×200×9×14	M20	3×2	120	－	12× 410	12× 80	5×1	60	9×320×170	282.0	1200.0	380.0	28.08	553.0	1.4	1.56	7.53	1.56	GGF－4X－J－4520・0916－20
GGF－4X－J－4530・1219－20	H－440×300×11×18	M20	4×2	150	40	12× 440	12×110	5×1	60	9×320×170	480.0	2050.0	438.0	32.34	871.0	1.3	2.26	12.34	3.07	GGF－4X－J－4530・1219－20
GGF－4X－J－5020・0916－20	H－500×200×10×16	M20	3×2	120	－	12× 410	12× 80	5×1	60	9×320×170	362.0	1540.0	465.0	35.80	689.0	1.3	1.58	7.42	1.60	GGF－4X－J－5020・0916－20
GGF－4X－J－5030・1219－20	H－488×300×11×18	M20	4×2	150	40	12× 440	12×110	4×2	90	12×350×290	547.0	2330.0	543.0	40.04	1020.0	1.4	2.07	12.14	2.77	GGF－4X－J－5030・1219－20
GGF－4X－J－6020・1216－20	H－600×200×11×17	M20	3×2	120	－	12× 410	12× 80	4×2	120	9×440×290	478.0	2040.0	713.0	52.58	930.0	1.3	1.47	7.07	1.42	GGF－4X－J－6020・1216－20
GGF－4X－J－3020・0912－22	H－294×200×8×12	M22	3×2	120	－	9× 410	9× 80	2×1	120	6×200×170	141.0	600.0	240.0	17.76	271.0	1.3	1.26	8.08	2.05	GGF－4X－J－3020・0912－22
GGF－4X－J－3525・0916－22	H－340×250×9×14	M22	3×2	150	－	12× 410	12×100	3×1	60	9×200×170	244.0	1040.0	293.0	21.60	455.0	1.4	1.70	10.30	2.58	GGF－4X－J－3525・0916－22
GGF－4X－J－4020・0912－22	H－400×200×8×13	M22	3×2	120	－	9× 410	9× 80	3×1	90	9×260×170	220.0	939.0	327.0	24.16	390.0	1.2	1.44	7.76	1.63	GGF－4X－J－4020・0912－22
GGF－4X－J－4030・0916－22	H－390×300×10×16	M22	3×2	150	40	12× 350	12×110	3×1	90	9×260×170	367.0	1560.0	388.0	28.60	603.0	1.2	1.99	12.50	3.08	GGF－4X－J－4030・0916－22
GGF－4X－J－4520・0916－22	H－450×200×9×14	M22	3×2	120	－	12× 410	12× 80	4×1	60	12×260×170	276.0	1180.0	398.0	29.34	543.0	1.4	1.49	7.53	1.56	GGF－4X－J－4520・0916－22
GGF－4X－J－4530・1219－22	H－440×300×11×18	M22	4×2	150	40	12× 440	12×110	5×1	60	9×320×170	471.0	2010.0	423.0	31.24	849.0	1.3	2.34	12.34	3.07	GGF－4X－J－4530・1219－22
GGF－4X－J－5020・0916－22	H－500×200×10×16	M22	3×2	120	－	12× 410	12× 80	4×1	90	9×350×170	355.0	1510.0	504.0	37.20	670.0	1.3	1.52	7.42	1.60	GGF－4X－J－5020・0916－22
GGF－4X－J－5030・1219－22	H－488×300×11×18	M22	4×2	150	40	12× 440	12×110	5×1	60	12×320×170	536.0	2280.0	495.0	36.52	938.0	1.2	2.27	12.14	2.77	GGF－4X－J－5030・1219－22
GGF－4X－J－6020・1216－22	H－600×200×11×17	M22	3×2	120	－	12× 410	12× 80	7×1	60	9×440×170	483.0	2060.0	593.0	43.78	865.0	1.2	1.76	7.07	1.42	GGF－4X－J－6020・1216－22
GGF－4X－J－6030・1219－22	H－588×300×12×20	M22	4×2	150	40	12× 440	16×110	7×1	60	9×440×170	743.0	3160.0	618.0	45.60	1330.0	1.3	2.53	11.80	2.56	GGF－4X－J－6030・1219－22
GGF－4X－J－7030・1425－22	H－700×300×13×24	M22	5×2	150	40	19× 530	19×110	9×1	60	9×560×170	1080.0	4610.0	769.0	56.68	2100.0	1.4	2.96	11.62	2.58	GGF－4X－J－7030・1425－22
GGF－4X－J－8030・1425－22	H－800×300×14×26	M22	5×2	150	40	19× 530	19×110	10×1	60	12×620×170	1380.0	5870.0	964.0	71.12	2610.0	1.3	3.02	11.34	2.44	GGF－4X－J－8030・1425－22
GGF－4X－J－9030・1622－22	H－890×299×15×23	M22	5×2	150	40	16× 530	19×110	12×1	60	12×740×170	1480.0	6330.0	1130.0	83.40	2830.0	1.3	2.78	10.55	1.94	GGF－4X－J－9030・1622－22
GGF－4X－J－9030・1628－22	H－900×300×16×28	M22	6×2	150	40	19× 620	22×110	12×1	60	12×740×170	1740.0	7430.0	1200.0	88.96	3280.0	1.3	3.07	10.93	2.34	GGF－4X－J－9030・1628－22
GGF－4X－J－9030・1934－22	H－912×302×18×34	M22	7×2	150	40	25× 710	25×110	10×2	60	16×620×290	2080.0	8870.0	1470.0	108.70	4140.0	1.4	3.01	11.21	2.82	GGF－4X－J－9030・1934－22
GGF－4X－J－9030・1937－22	H－918×303×19×37	M22	7×2	150	40	25× 710	28×110	10×2	60	16×620×290	2250.0	9600.0	1550.0	114.80	4350.0	1.3	3.03	11.34	3.05	GGF－4X－J－9030・1937－22

継手呼称	断面寸法	径 D	フランジ ボルト $n_F \times m_F$	フランジ ゲージ g_1 mm	フランジ ゲージ g_2 mm	フランジ 外添板 厚×長さ mm mm	フランジ 内添板 厚×幅 mm mm	ウェブ ボルト $m_W \times n_W$	ウェブ ボルト P_G mm	ウェブ 添板寸法 厚×幅×長さ mm mm mm	継手性能 曲げモーメント M_y kNm	曲げモーメント $_dZ$ cm³	せん断力 Q_y kN	せん断力 $_dA_W$ cm²	軸力 N_y kN	軸力 $_dA$ cm²	曲げモーメント(弱軸) M_y kNm	曲げモーメント(弱軸) $_dZ$ cm³	保有耐力接合 M_u kNm	保有耐力接合 α_J	保有耐力接合 L_q m	横補剛 L_1 m	横補剛 L_2 m	継手呼称
CCF－4X－J－2020・0912－22	H－200×200×8×12	M22	2×2	120	－	9× 290	9× 80	2×1	・60	6×140×230	86.0	366.0	138.0	10.24	1130	48.17	27.70	118.0	152.0	1.2	1.36	8.54	3.00	CCF－4X－J－2020・0912－22
CCF－4X－J－2525・0916－22	H－250×250×9×14	M22	3×2	150	－	12× 410	12×100	2×2	60	9×140×290	166.0	707.0	212.0	15.66	1730	73.67	54.20	231.0	312.0	1.4	1.61	10.74	3.50	CCF－4X－J－2525・0916－22
CCF－4X－J－3020・0912－22	H－294×200×8×12	M22	3×2	120	－	9× 410	9× 80	3×1	60	9×200×170	141.0	600.0	214.0	15.84	1260	53.77	27.70	118.0	271.0	1.3	1.41	8.08	2.05	CCF－4X－J－3020・0912－22
CCF－4X－J－3030・0916－22	H－300×300×10×15	M22	3×2	150	40	9× 350	12×110	3×1	60	9×200×170	253.0	1080.0	268.0	19.80	2140	91.45	71.00	302.0	429.0	1.2	1.99	12.84	3.75	CCF－4X－J－3030・0916－22
CCF－4X－J－3525・0916－22	H－340×250×9×14	M22	3×2	150	－	12× 410	12×100	3×2	60	12×200×290	241.0	1030.0	293.0	21.60	1870	79.61	54.20	231.0	454.0	1.4	1.70	10.30	2.58	CCF－4X－J－3525・0916－22
CCF－4X－J－3535・1219－22	H－350×350×12×19	M22	2×4	140	70	12× 290	12×140	3×2	60	12×200×290	397.0	1690.0	390.0	28.80	2970	126.80	122.00	520.0	741.0	1.2	2.32	15.12	4.75	CCF－4X－J－3535・1219－22
22	H－400×200×8×13	M22	3×2	120	－	9× 410	9× 80	4×1	60	9×260×170	220.0	939.0	301.0	22.24	1480	63.21	30.10	128.0	398.0	1.2	1.97	7.76	1.63	CCF－4X－J－4020・0912－
22	H－390×300×10×16	M22	3×2	150	40	12× 350	12×110	4×1	60	9×260×170	367.0	1560.0	355.0	26.20	2400	102.50	75.80	323.0	612.0	1.2	2.17	12.50	3.08	CCF－4X－J－4030・0916－
22	H－400×400×13×21	M22	3×4	140	90	12× 410	16×170	3×2	90	12×260×290	606.0	2580.0	504.0	37.18	3970	169.00	190.00	812.0	1140.0	1.3	2.62	17.21	5.25	CCF－4X－J－4040・1422－22
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	825.0	3510.0	539.0	47.16	5270	224.40	264.00	1130.0	1490.0	1.2	2.82	17.43	6.67	CCF－4X－J－4040・1928－22



$n_F \times m_F$ ：フランジのボルト本数
$n_W \times m_W$ ：ウェブのボルト本数
h ：フランジ間内のリブ法
h2 ：内フランジ添板の内面間



PL t 1 ：外フランジ添板厚
PL t 2 ：内フランジ添板厚
PL t 3 ：ウェブ添板厚

図-2.4.1 梁継手の記号の説明

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）
図名	鉄骨梁継手リスト
縮尺	― 　番号 63 枚の内 SH12号
設計年月日	令和７年３月
設計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹
高山市	

構造設計 株式会社 佐瀬設計 一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士 第4646号 一級建築士 No.128187 佐瀬 光一

ハイベースNEO工法設計施工標準 （ハイベースNEO工法は、S造及びＣＦＴ造に適用）

2023/12

大臣認定　MSTL-0566,0404,0180（Gタイプ用ベースプレート）
　　MBLT-0042～0046（アンカー用ボルトセット）
BCJ評定　BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
　　BCJ評定-ST0059（エコタイプ、高強度柱適用タイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ ６ 鉄骨工事、建築工事標準仕様書
同解説 ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設　　計

１．材質

（１）ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ（ＥＢ型式、ＥＭ型式、ＥＨ型式）,高強度柱適用タイプ（KB型式）

	ベースプレート エコタイプ	ベースプレート 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト※2	エコナット※2	ナット※2	座金※2	定着板
規格	JIS G3136 又は TMCP鋼※4	TMCP鋼※4	HAB（大臣認定取得材）	大臣認定取得材	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	–	–	メートル並目	メートル並目	メートル並目	–	–
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B,C	TMCP385B,C	降伏比 70%以下	-	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ（ＧＢ型式、ＧＭ型式、ＧＨ型式）

	ベースプレート※1	アンカーボルト※2	ナット※2	座金※2	定着板
規格	HCW490B,b HCW490st（大臣認定取得材）	HAB（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	–	メートル並目	メートル並目※3	–	–
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5（二重ナット用） 強度区分1（一重ナット用）	SM490A	SS400

※1　国土交通大臣認定（ＭＳＴＬ-0566、０４０４、０１８０）　※2　国土交通大臣認定（ＭＢＬＴ-００４２～００４６）
※3　Ｍ７２は細目ねじ　※4　建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

（２）ベースプレート下面のモルタル

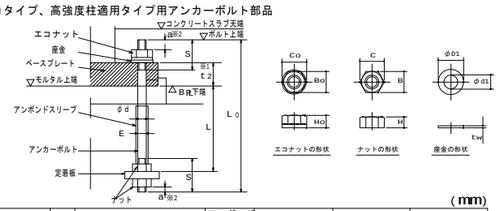
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※　※ センクシアが供給するものに限る
中心塗部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル（NX-２０００及びクイック３は使用不可。） ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（３）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、Ｆｃ＝１８～３６Ｎ／ ㎟
鉄筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の０．１倍以上確保しなければならない。

２．アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



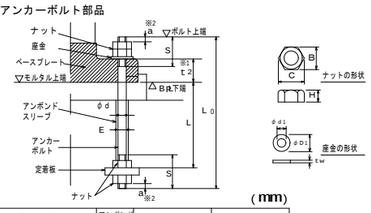
（mm）

	ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじ ピッチ	ねじ 長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	エコナット 高さ	二面幅	対角距離	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
		φd	P	S	a	L	LΘ	E	HΘ	BΘ	CΘ	H	B	C	tw	φd1	φD1
エコタイプ※3	M24	24	3	95 105	10	480 480	550 645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
	M30	30	3.5	118 130	13	480 600	580 800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
	M36	36	4	130	16	480 720	690 925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
	M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
高強度柱適用タイプ	M42	42	4.5	165	18	840	1110	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1　t₂ はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
※2　ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
　施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3　表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、
　エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

⚠注意
・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



（mm）

ねじの呼び 軸径	ねじ ピッチ	ねじ 長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
φd	P	S	a	L	LΘ	E	H	B	C	tw	φd1	φD1
M24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	4	130 150	16	720	925 955	41	29	55	64	6	37	66
M42	4.5	155 165	18	840	1080 1110	48	34	65	75	9	43	78
M48	5	175 190	22	960	1235 1278	54	38	75	87	9	50	92
M56	5.5	185 210	24	1120	1428 1478	62	45	85	98	9	58	105
M64	6	205 230	28	1280	1638 1698	70	51	95	110	12	66	115
M72	6	250	30	1440	1858	79	58	105	121	12	74	125

※1　t₂ はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
※2　ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
　施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3　表中のＧタイプ上段はGB型式及びGM型式の場合、
　下段はGH型式の場合の寸法です。

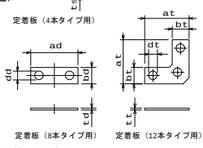
⚠注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

ベースプレートのアンカーボルト孔径（mm）

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ 高強度柱適用タイプ	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87

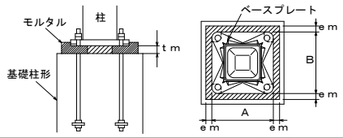
定着板（エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通）（mm）

ねじの呼び	4本タイプ用 厚さ ts	外径 Ds	内径 ds	8本タイプ用 厚さ td	長さ ad	幅 bd	内径 dd	12本タイプ用 厚さ tt	長さ at	幅 bt	内径 dt
M24	16	70	27	-	-	-	-	-	-	-	-
M30	16	90	33	9	180	65	33	-	-	-	-
M36	19	100	39	9	215	75	39	-	-	-	-
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	-	-	-	16	380	145	76	16	375	145	76



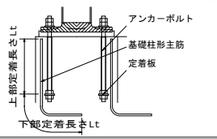
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースＮＥＯ工法設計ハンドブックを参照ください。

３．ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ（ｔｍ）	標準寸法 ｔｍ=50mm	許容範囲 ３０≦ｔｍ≦７０mm
ベースプレート周辺のモルタル幅（ｅｍ）	ｅｍ≧３０mm	許容範囲 ｅｍ≧２５mm

４．基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）



工場加工

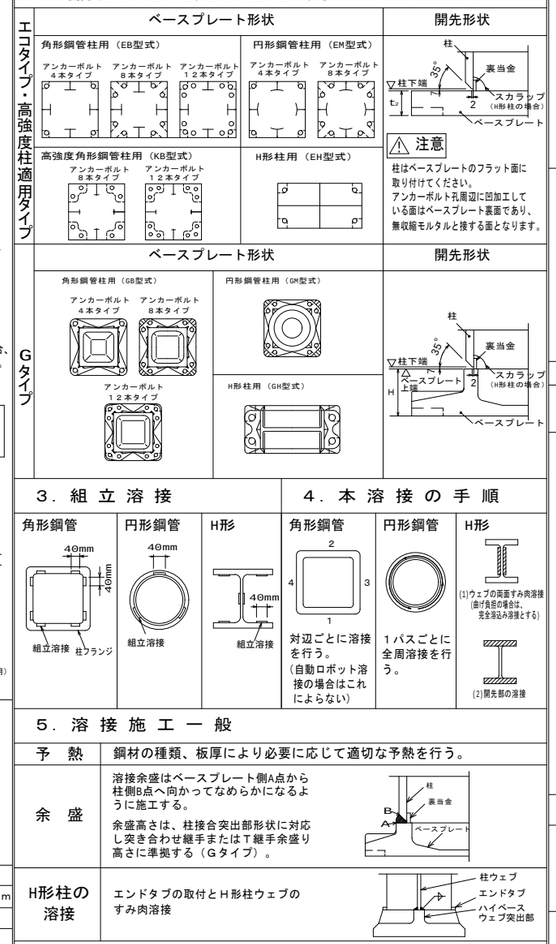
１．溶接材料

被覆アーク溶接	JIS Z 3211（旧JIS Z 3212）に従い選定する（低水素系）
ガスシールドアーク溶接	JIS Z 3312 又は JIS Z 3313に従い選定する

※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

２．ベースプレートの鉄骨柱への取付け（柱端部に開先を設ける）

※　柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
　　開先はＭＣ-ＴＬ-１Ｂ、ＧＣ-ＴＬ-１Ｂによる　　※開先形状は参考



３．組立溶接

４．本溶接の手順

５．溶接施工一般

予熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはＴ継手余盛り高さに準拠する（Ｇタイプ）。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とＨ形柱ウェブのすみ肉溶接

⚠注意　柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がることがあります。

６．検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（１）有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （２）溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から５０mm以上、はつり取り再溶接する。

現場施工

（#）：センクシアの担当範囲

１．捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

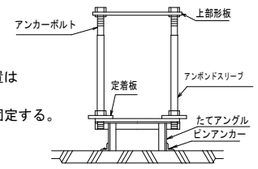
２．墨出し

３．アンカーボルト搬入（#）

４．アンカーボルト据付（#）

アンカーボルト設置

アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。



アンカーボルト設置例
（架台の形状は異なる場合あり）

アンカーボルト設置精度の目標値

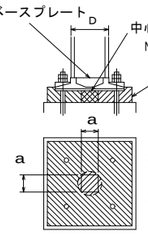
平面	レベル
e≦３mm（形板芯にて検査）	基準高さよりの誤差eh －３mm≦eh≦10mm

５．鉄筋配筋・型枠の立込み

６．基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

７．中心塗り部分モルタル施工



（イ）□ ２５０以下、φ２６７．４以下、H２５０以下の場合
　　１００mm ≦ ａ ≦２００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下
（ロ）□ ３００以上□７００以下、φ３００以上φ７１１．２以下、および H２５０以上の場合
　　１５０mm ≦ ａ ≦３００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下
（ハ）□ ７５０～□１２００、φ７５０～φ１０１６の場合
　　３００mm ≦ ａ ≦５００mm

中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH,KB型式	GH型式
８．鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは除開がないよう確実に締め付けを行う。	８．鉄骨建方
	９．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#）
９～１０．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#） アンカーボルト締付確認（#） ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	１０．アンカーボルト締付（#） 予備締め マーキング ナット回転法による本締め （30°回転、許容差 $^{+10°}_{-0}$）

１１．モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースＮＥＯ工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社
URL https://www.sengcia.co.jp/
本社　ＴＥＬ　０３-４２１４-１９３２
札幌　ＴＥＬ　０１１-７０８－１１７７
東北　ＴＥＬ　０２２-２１３-５５９５
関東　ＴＥＬ　０２７-３２２-９４１１
中部　ＴＥＬ　０５２－５８２－３３５６
北陸　ＴＥＬ　０７６-２３３-５２６０
関西　ＴＥＬ　０６-６３９５-２１３３
中四国　ＴＥＬ　０８２-２４０-１６３０
九州　ＴＥＬ　０９２-４５２-０３４１

⚠注意
1．アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2．アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3．設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきぎやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4．建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5．本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

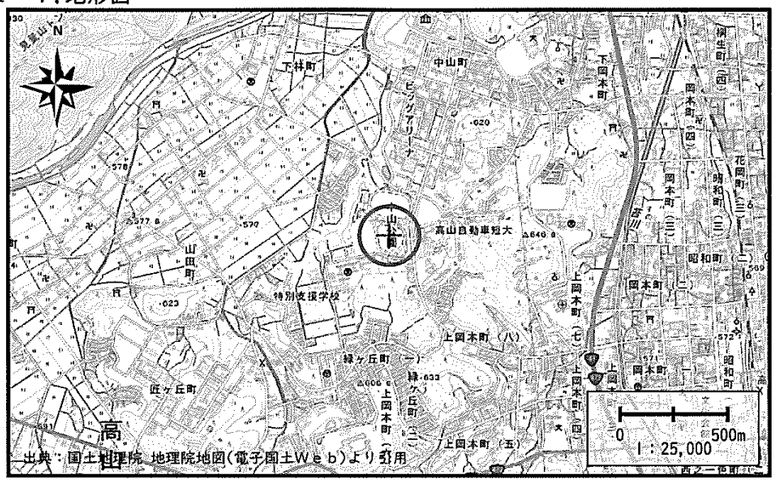
工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図名	柱脚既製品標準図（参考）		
縮尺	―	番号	63 枚の内 SH13号
設計年月日	令和７年３月		
設計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高山市			

構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

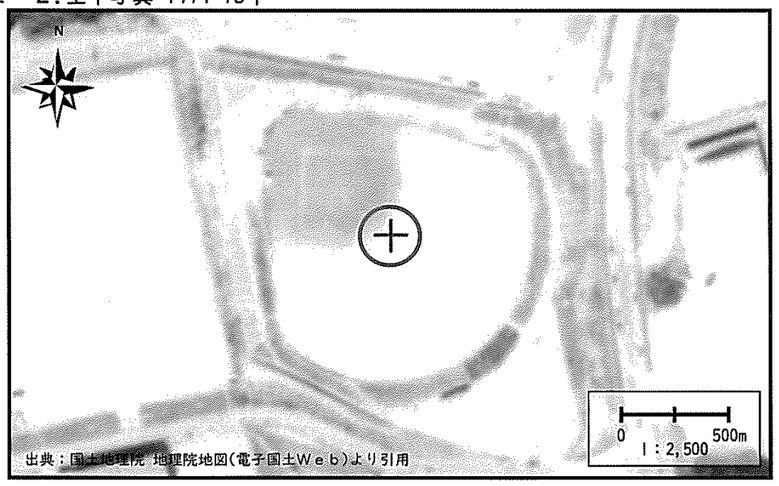
2．調査地案内図

岐阜県高山市山田町690　　○…調査地

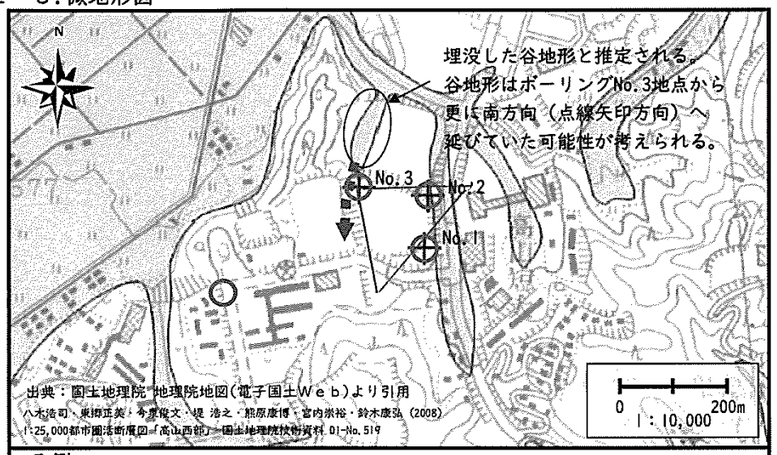
2－1.地形図



2－2.空中写真 1974-78年



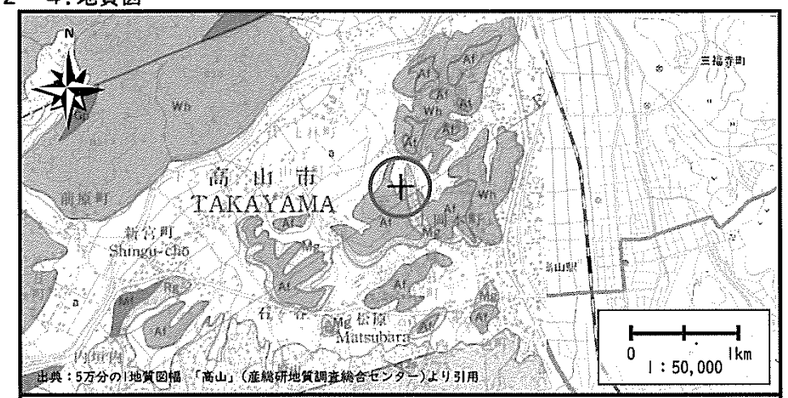
2－3.微地形図



凡例

沖積低地		数千年前から歴史時代にかけて、海または河川の作用で形成された平坦地。

2－4.地質図



凡例

第四紀

沖積層

- a　礫・砂及び粘土

更新世堆積物

- 原山礫層
- 荒城川火砕流堆積物
- 松原礫層

白亜紀

濃飛流紋岩類

- 源氏岳溶結凝灰岩
- 三日町層
- 彦谷溶結凝灰岩

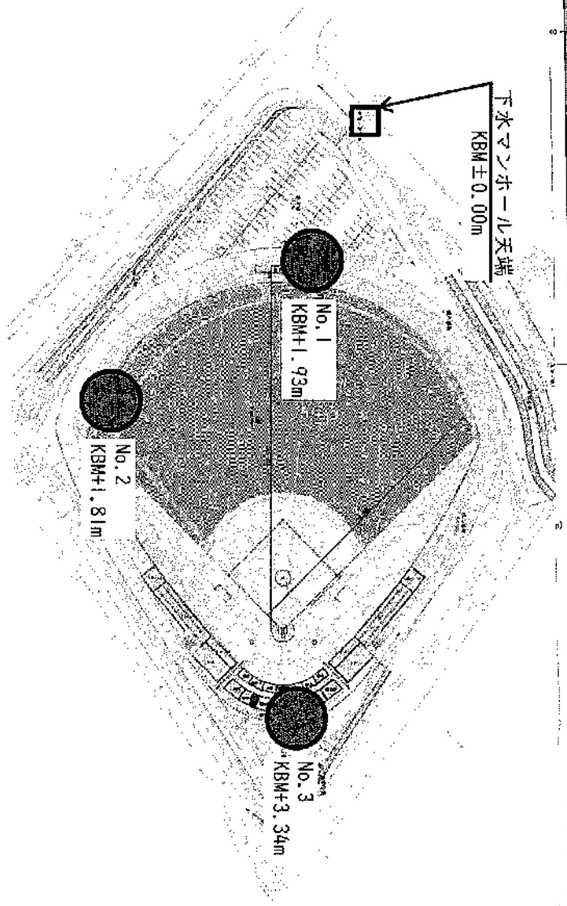
工事名

図　名

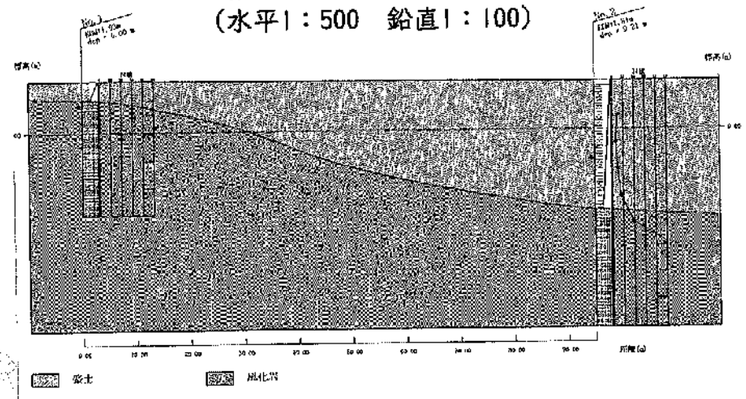
縮　尺

構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

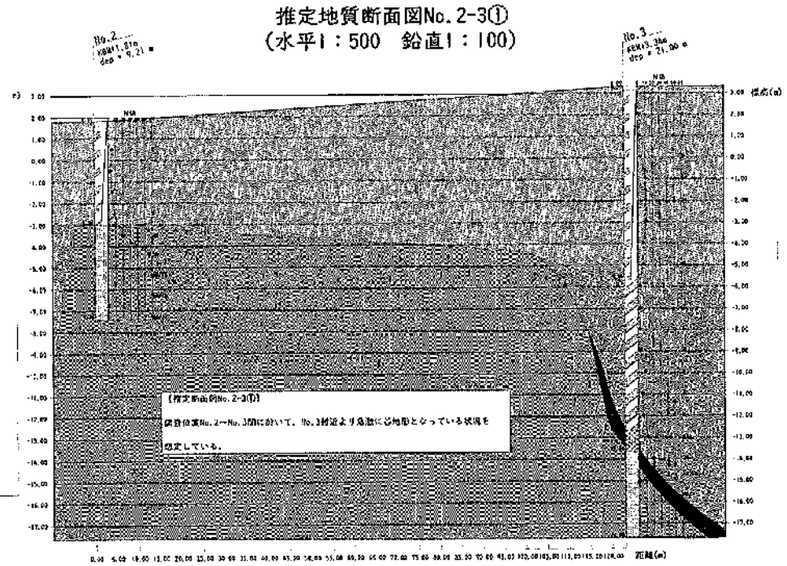
工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	ボーリングデーター１		
縮　尺	―	番　号	63 枚の内 SH14 号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			



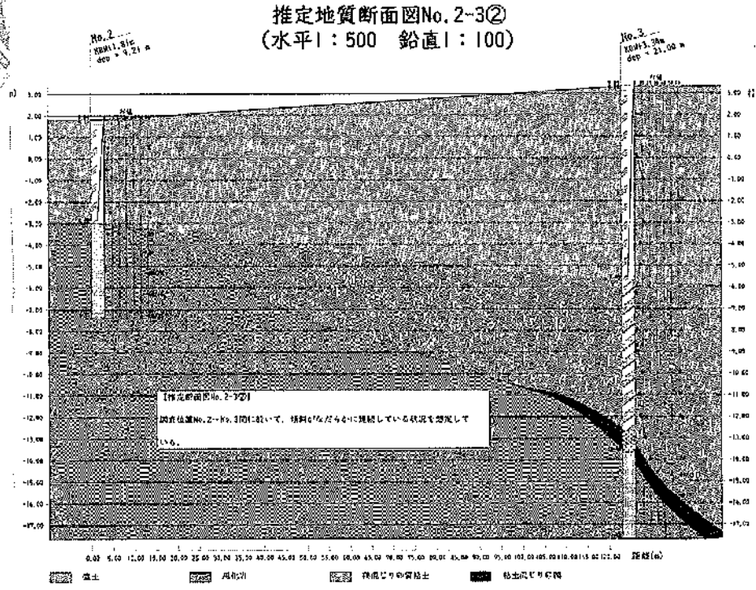
推定地質断面図No.1-2
(水平1：500　鉛直1：100)



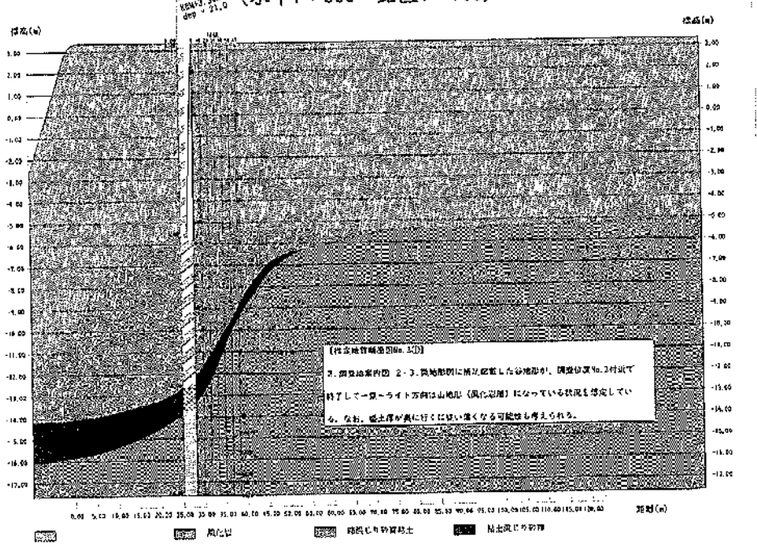
推定地質断面図No.2-3①
(水平1：500　鉛直1：100)



推定地質断面図No.2-3②
(水平1：500　鉛直1：100)



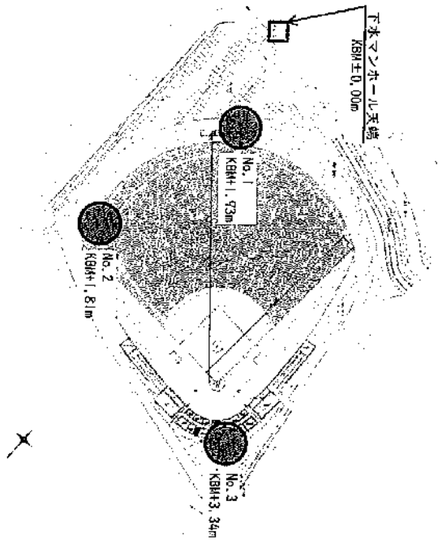
推定地質断面図No.3①
(水平1：500　鉛直1：100)



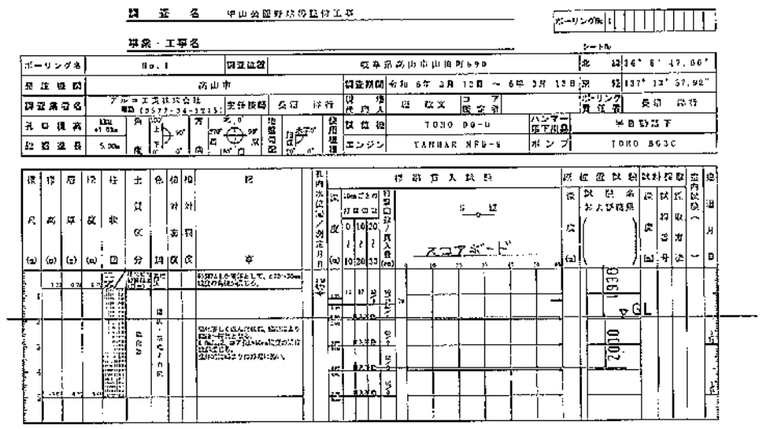
構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	ボーリングデーター２		
縮　尺	－	番　号	63 枚の内 SH15号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

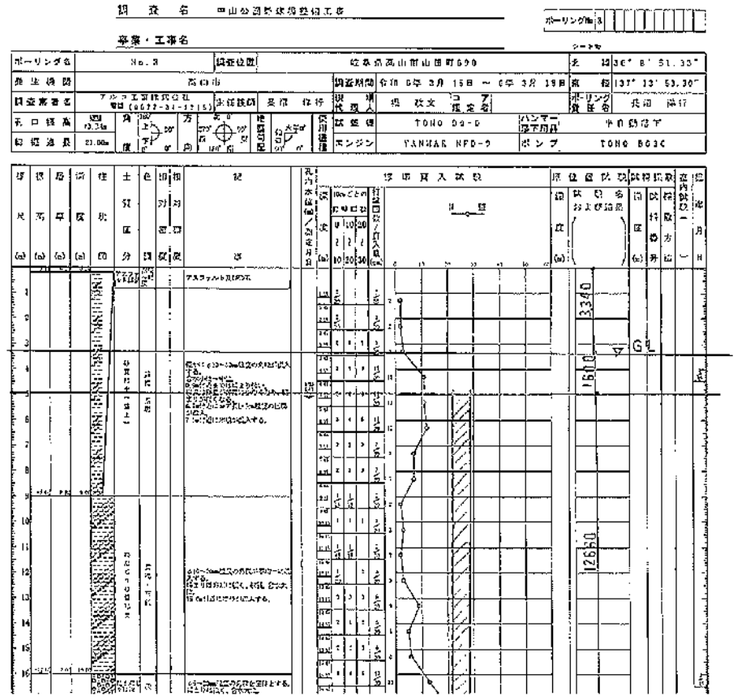
調査地点位置図



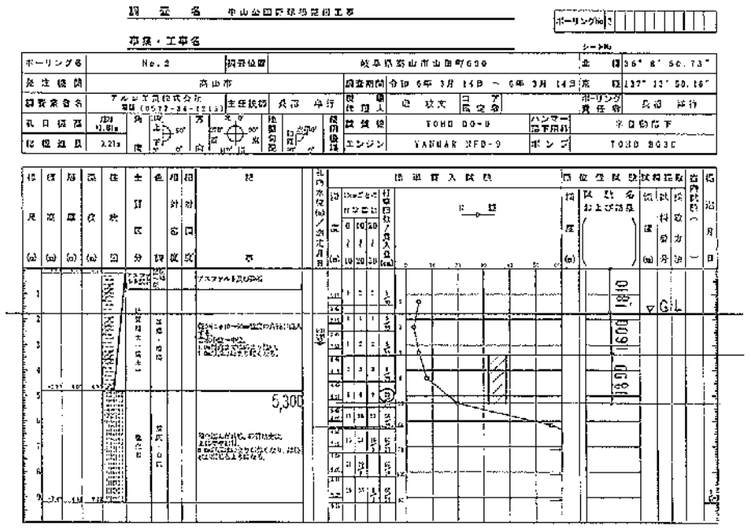
ボーリング柱状図



ボーリング柱状図



ボーリング柱状図

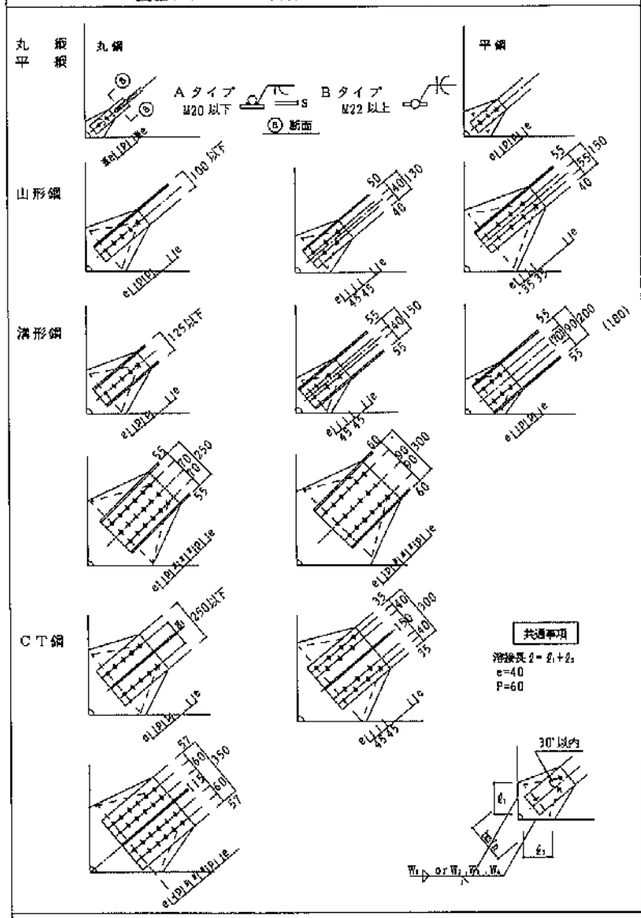


構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い－６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	ボーリングデーター３		
縮　尺	－	番　号	63 枚の内 SH16号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)夢太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

ブレース仕口標準図（1）2015年度版

壁面ブレース　（床面ブレースもこれに準ずる）



丸鋼　JIS A 5540:2008

採用	部材	引張耐力 (kN)	GL−txb min	HTB	縁e	溶接長 ℓ (mm)	溶接長 s (mm)
	M10	14	6x 60	1−M12	30	60	6
	M12	20	6x 60	1−M16	40	60	6
	M14	28	6x 60	1−M16	40	60	6
	M16	38	9x 70	1−M16	45	80	8
	M18	47	9x 70	1−M20	50	80	8
	M20	60	9x 80	1−M20	50	90	8
	M22	74	12x80	1−M22	55	100	10
	M24	87	12x90	2−M20	50	100	10
	M27	112	12x90	2−M20	50	120	10
	M30	138	12x100	2−M22	55	140	10
	M33	170	12x110	2−M22	55	160	10

平鋼

採用	部材	引張耐力 (kN)	GL−txb min	HTB	溶接長 ℓ (mm)	溶接長 s (mm)
	FB − 65x 6	66	6x 65	2−M16	90	6
	FB − 75x 6	80	6x 75	2−M16	100	6
	FB − 65x 9	99	9x 65	3−M16	110	7
	FB − 75x 9	120	9x 75	3−M16	120	7
	FB − 90x 9	143	9x 90	3−M20	140	7
	FB − 100x 9	165	9x100	3−M20	160	7
	FB − 90x12	191	12x 90	3−M20	160	9
	FB − 100x12	220	12x100	4−M20	170	9
	FB − 90x16	255	16x 90	4−M20	170	12
	FB − 100x16	293	16x100	5−M20	180	12
	FB − 125x12	290	12x125	5−M20	210	9
	FB − 125x16	387	16x125	6−M20	230	12

山形鋼　（2Lは2面せん断の場合とする。）

採用	部材	引張耐力 (kN)	GL−txb min	HTB	溶接長 n →	溶接長 n ↓	組立 i
	L − 65x 65x 6	106	6x110 (9x 90)	5−M16	140 (130)		
	L − 75x 75x 6	127	6x130 (9x 95)	5−M16	160 (150)		
	L − 75x 75x 9	181	9x130	5−M16	200		
	L − 75x 75x12	233	9x160	5−M20	240		
	L − 90x 90x 7	177	9x130	5−M20	190		
	L − 90x 90x10	242	9x170	5−M20	250		
	L − 90x 90x13	306	9x200	6−M20	310		
	L − 100x100x 7	202	9x140	5−M20	220		
	L − 100x100x10	277	9x190	5−M20	290		
	L − 100x100x13	351	9x230	7−M20	360		
	L − 130x130x12	423	12x220	7−M22	340		
	L − 130x130x15	518	12x260	8−M22	410		
	L − 150x150x15	582	16x240	9−M22	360	190	
	L − 150x150x19	720	16x290	11−M22	440	240	
	2L − 65x 65x 6	242	9x170	5−M16	260		3.00
	2L − 75x 75x 6	284	9x190	5−M16	300		3.40
	2L − 75x 75x 9	392	9x270 (12x200)	5−M20	410 (340)		3.45 (3.56)
	2L − 75x 75x12	490	12x260	5−M20	420		3.64
	2L − 90x 90x 7	401	12x200	5−M20	330		4.12
	2L − 90x 90x10	531	12x270	5−M20	450		4.17
	2L − 90x 90x13	658	12x350	7−M20	560		4.24
	2L − 100x100x 7	450	12x230	5−M20	370		4.52
	2L − 100x100x10	602	12x310	6−M20	500		4.57
	2L − 100x100x13	750	12x390	8−M20	630		4.64
	2L − 130x130x12	924	16x360	8−M22	580	330	5.94
	2L − 130x130x15	1115	16x440	10−M22	710	400	6.01
	2L − 150x150x15	1271	19x450	11−M22	740	400	6.90
	2L − 150x150x19	1546	22x460	13−M22	850	420	7.11

溝形鋼

採用	部材	引張耐力 (kN)	GL−txb min	HTB	溶接長 n →	溶接長 n ↓	組立 i
	[− 100x 50x 5 x 7.5	187	9x130	5−M20	180		
	[− 125x 65x 6 x 8	279	9x180	6−M20	310		
	[− 150x 75x6.5x10	379	9x240	7−M20	420		
	[− 180x 75x 7 x10.5	426	12x220	8−M20	370		
	[− 200x 80x7.5x11	499	12x260	10−M20	430		
	[− 200x 90x 8 x13.5	609	12x300	12−M20	520		
	[− 250x 90x 9 x13	685	16x280	12−M20	450	240	
	[− 300x 90x 9 x13	790	16x310	15−M20	490	270	
	2[− 100x 50x 5 x 7.5	421	12x210	5−M20	320		
	2[− 125x 65x 6 x 8	606	12x290	6−M20	470		3.20
	2[− 150x 75x6.5x10	822	16x310	8−M20	520	280	3.85
	2[− 180x 75x 7 x10.5	946	19x300	10−M20	490	260	3.83
	2[− 200x 80x7.5x11	1092	19x340	12−M20	560	300	3.98
	2[− 200x 90x 8 x13.5	1312	22x370	12−M20	610	320	4.73
	2[− 250x 90x 9 x13	1510	22x420	15−M20	660	350	4.40
	2[− 300x 90x 9 x13	1722	22x460	18−M20	730	390	4.21

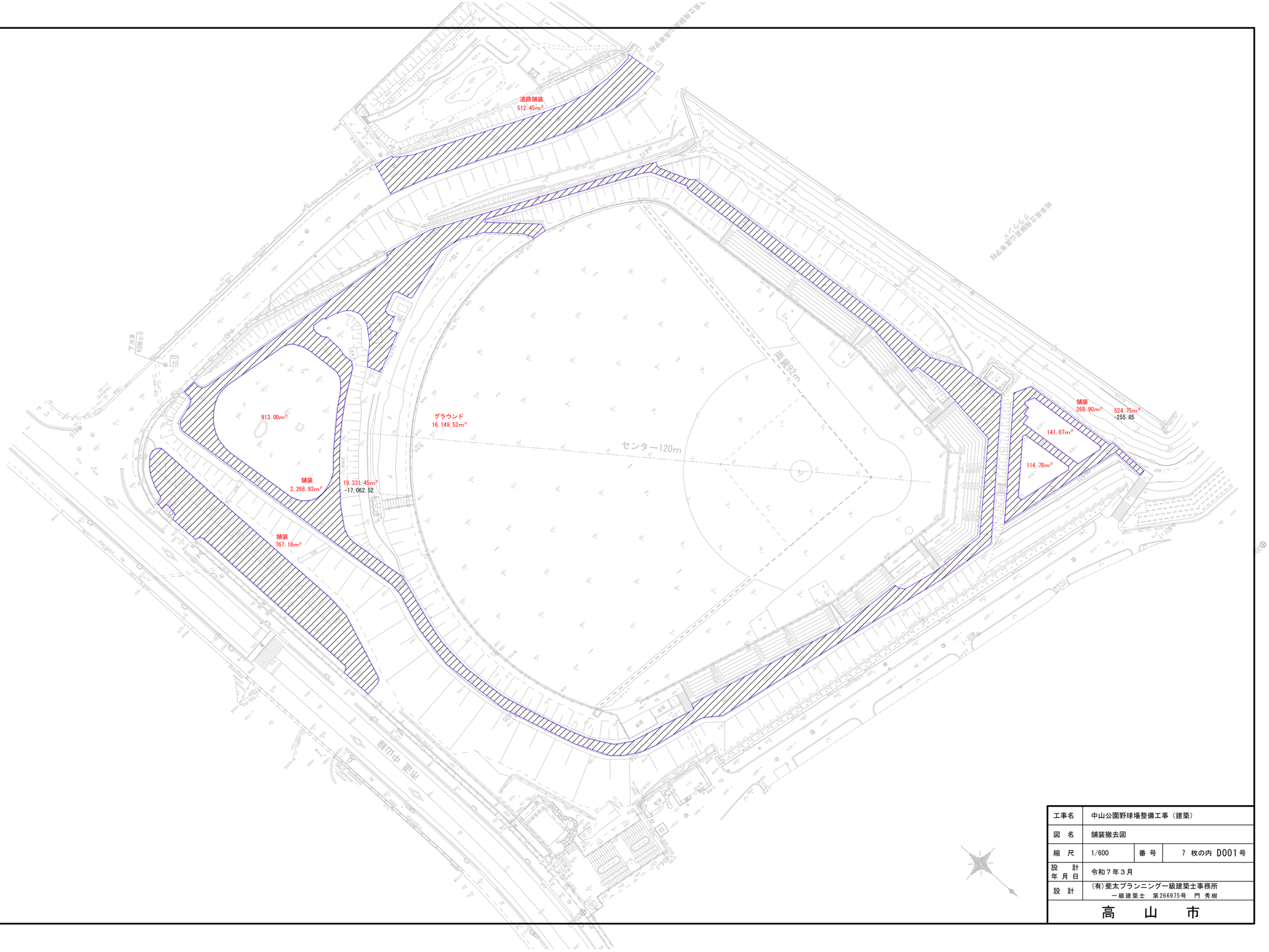
CT鋼

採用	部材	引張耐力 (kN)	GL−txb min	HTB	溶接長 n →	溶接長 n ↓	組立 i
	CT− 75x150x 7 x10	319	9x210	8−M16	320		
	CT−87.5x175x7.5x11	413	12x210	8−M20	330		
	CT− 100x200x 8 x12	529	12x260	10−M20	400		
	CT− 125x250x 9 x14	797	16x280	12−M20	460	250	
	CT− 150x300x10 x15	1002	16x400	14−M20	580	300	
	CT− 175x350x12 x19	1380	19x450	20−M20	620	330	
	2CT−87.5x175x7.5x11	921	16x310	8−M20	480	270	3.16
	2CT− 100x200x 8 x12	1151	16x380	10−M20	600	340	3.49
	2CT− 125x250x 9 x14	1589	19x460	12−M20	650	400	4.25

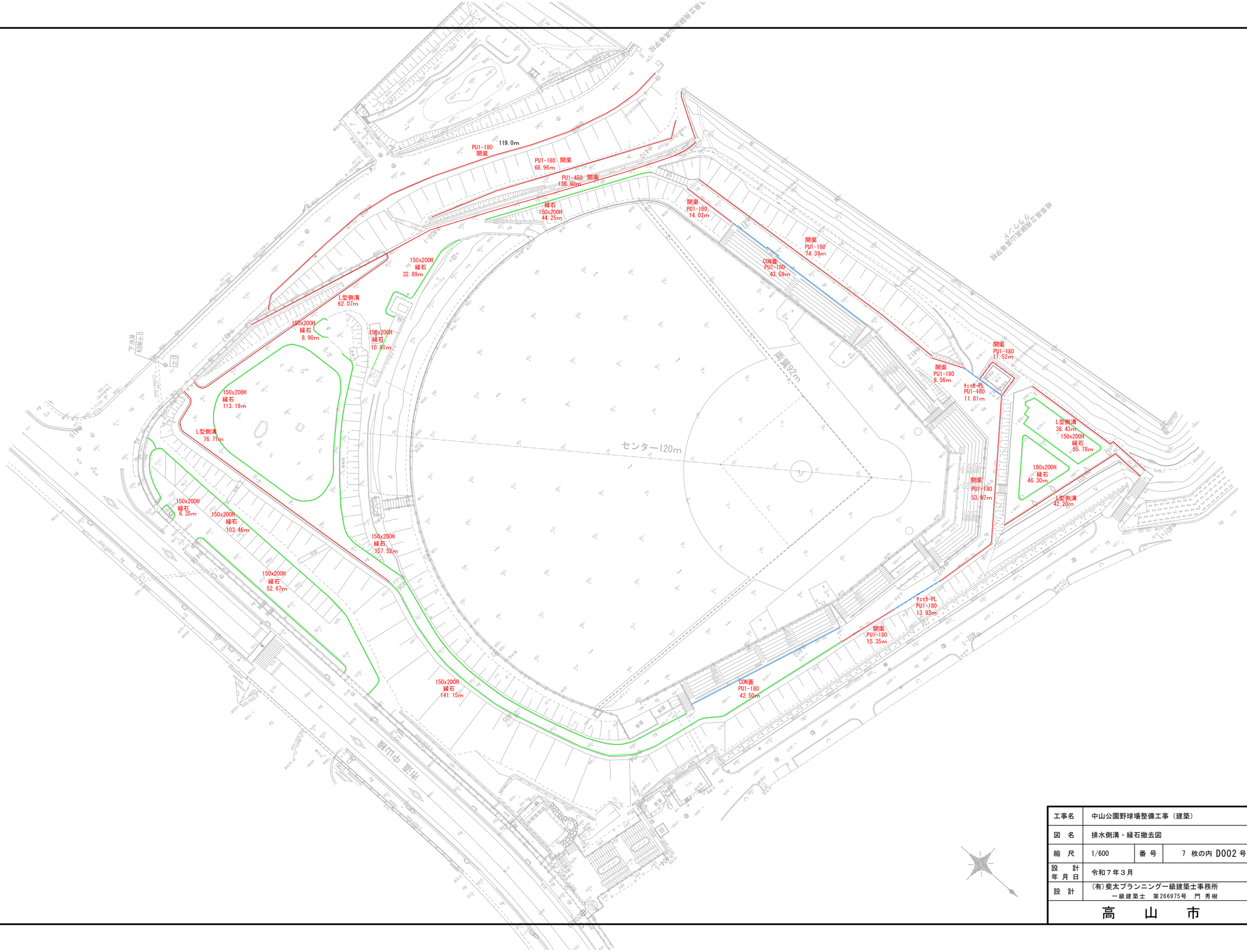
構造設計　株式会社 佐瀬設計　一級建築士事務所(い−６)第13665号
構造設計一級建築士　第4646号　一級建築士　No.128187　佐瀬　光一

6.スコアボード

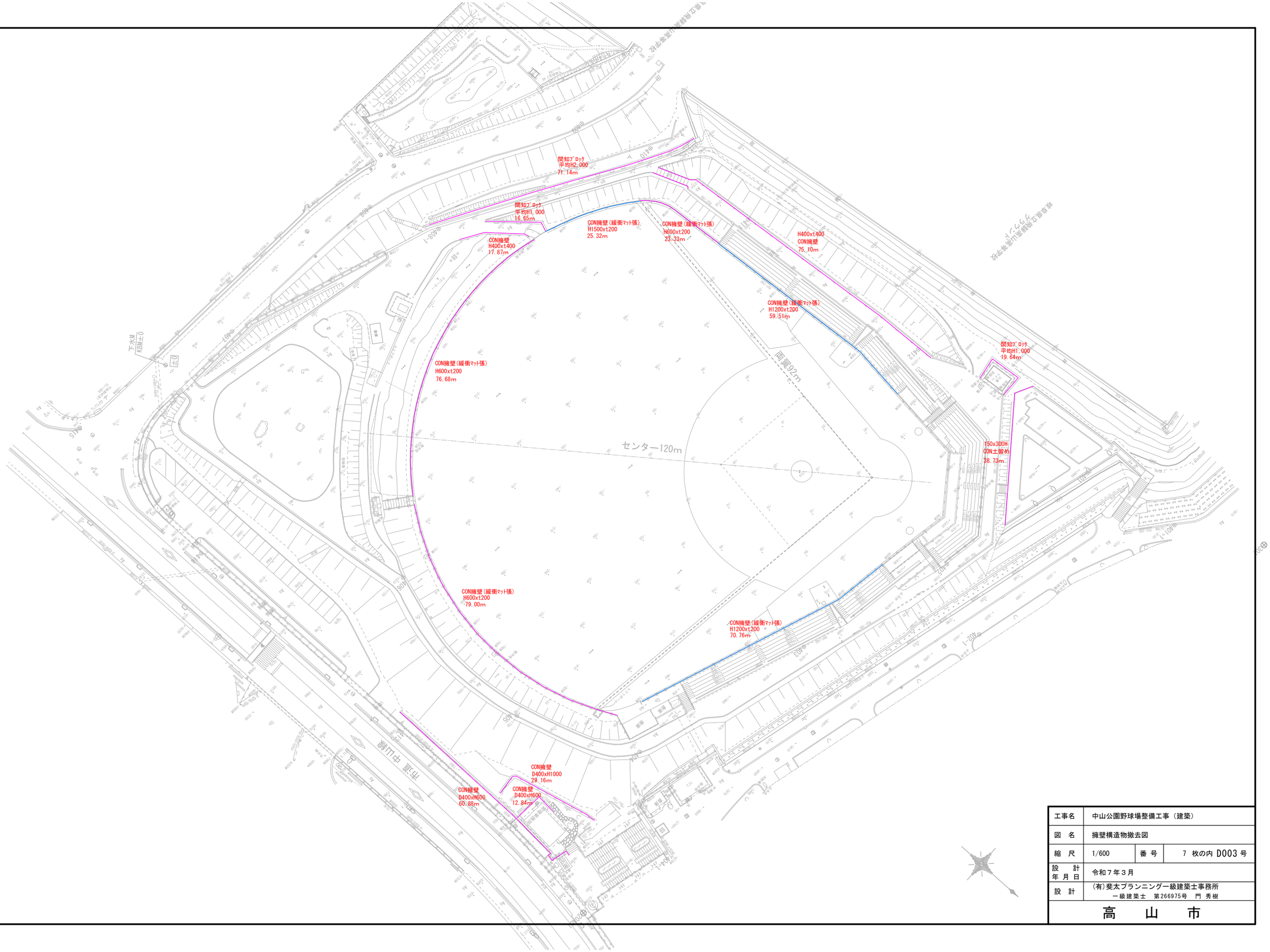
工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図名	スコアボード　ブレース標準図		
縮尺	−	番号	63 枚の内 SH17号
設計年月日	令和７年３月		
設計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高山市			



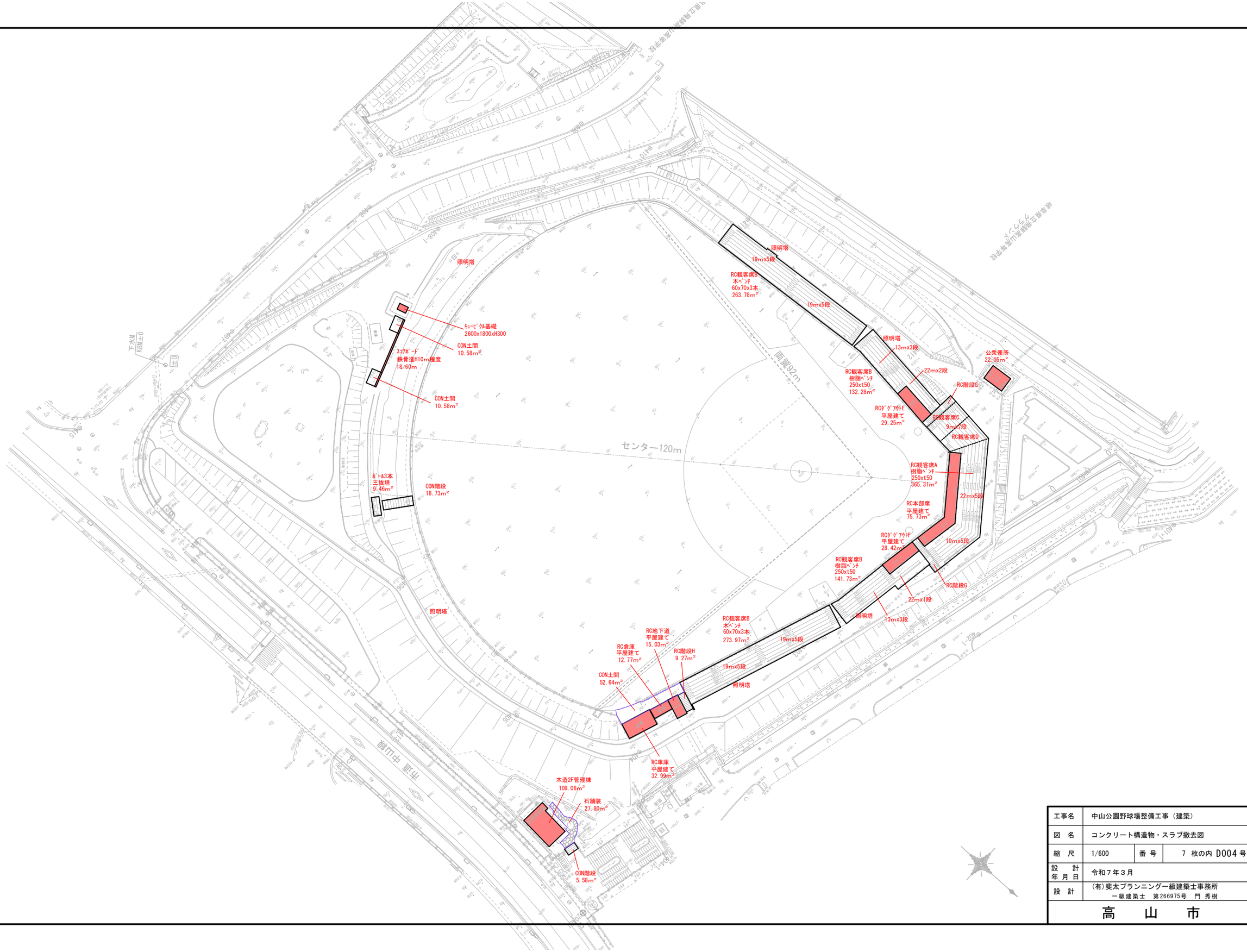
工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	舗装撤去図		
縮　尺	1/600	番　号	7　枚の内 D001号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			



工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	排水側溝・縁石撤去図		
縮　尺	1/600	番　号	7　枚の内 D002 号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門　秀樹		
高　山　市			

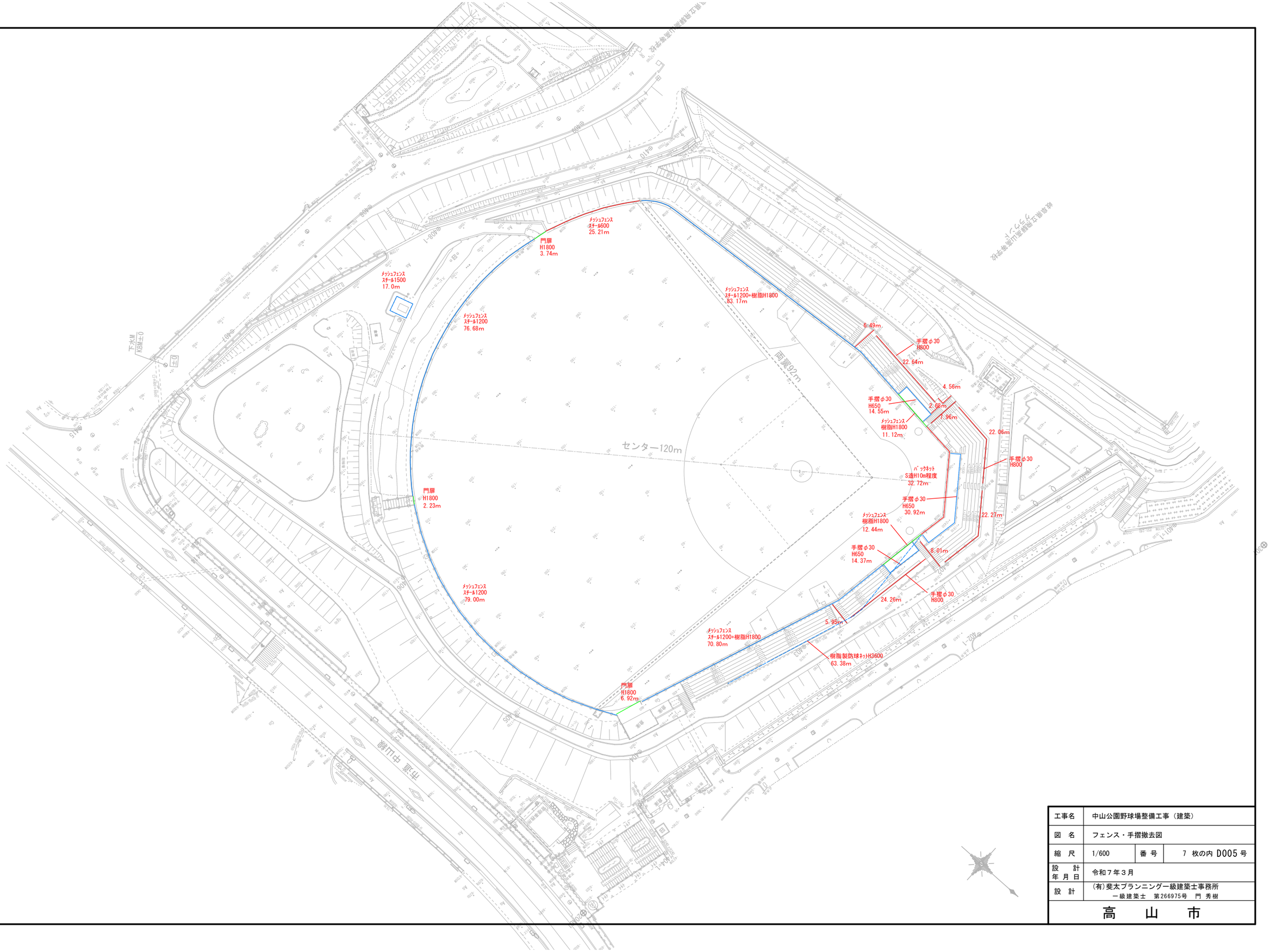


工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	擁壁構造物撤去図		
縮　尺	1/600	番　号	7　枚の内 D003 号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			



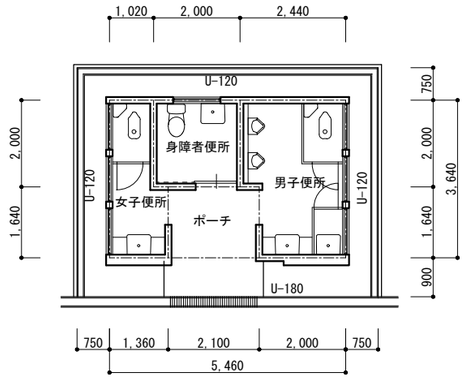
工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	コンクリート構造物・スラブ撤去図		
縮　尺	1/600	番　号	7　枚の内 D004 号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		

高　山　市



工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	フェンス・手摺撤去図		
縮　尺	1/600	番　号	7　枚の内 D005 号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門　秀樹		

高　　山　　市

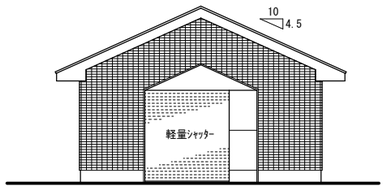


平 面 図 S=1:100

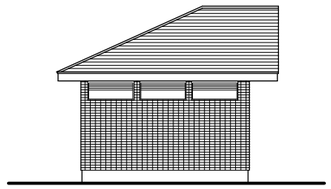
[建物概要]
用　途　公衆便所
構　造　木造　平屋建て　床下鉄筋コンクリート便槽
延床面積 19.87㎡（ 6.0坪）

[外部仕上]
屋　根　フッ素樹脂鋼板t=0.4 馳掛横葺（下地：コンパネt=12 ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ22kg）
外　壁　繊維混入セメントパーライト板(デザイン)t=16張りフラット板t=12 複層塗材E
巾　木　モルタル刷毛引き仕上
軒　天　有孔石綿ケイ酸カルシウム板t=6(アスベスト含有) 目透し張り EP
建　具　軽量ｼｬｯﾀｰ1930X2250　木製建具W6.8

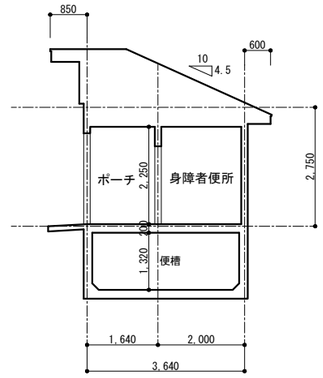
[内部仕上]
床　モルタル下地 カラー練込コンクリート塗り t=5
壁　100角磁器質タイル張りH=1800 一部石膏ボードt=9 EP
天　井　有孔石綿ケイ酸カルシウム板t=6 目透し張り EP
天井高：H=2300　天井下地：木造　廻り縁：塩ビ
便　槽　鉄筋コンクリート造　有効 3420 X 5240 H=1290
建　具　引戸･トイレブース：ポリ合板フラッシュt=36 H=1800



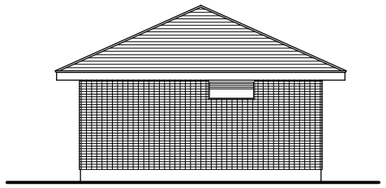
東 立 面 図 S=1:100



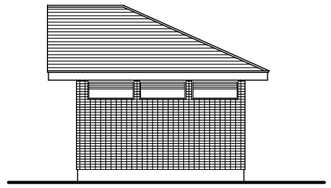
南 立 面 図 S=1:100



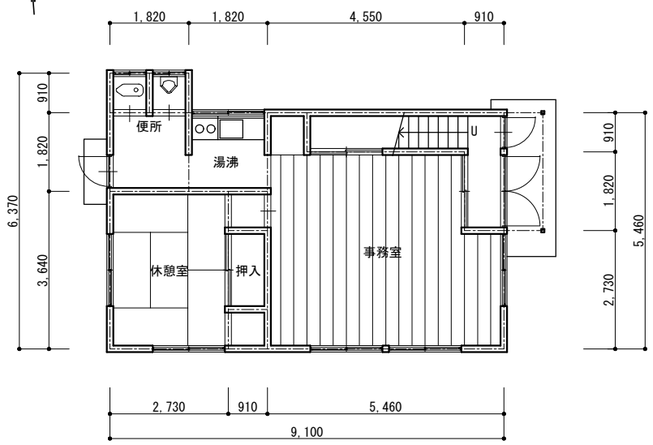
断 面 図 S=1:100



西 立 面 図 S=1:100



北 立 面 図 S=1:100

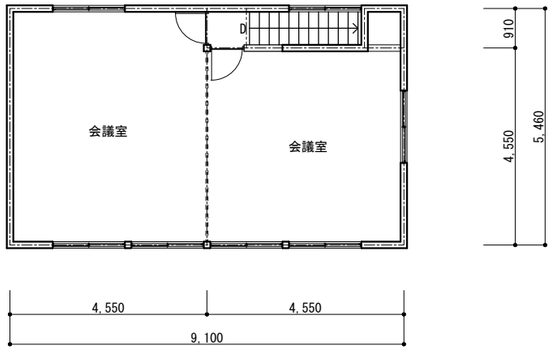


1 階 平 面 図 S=1:100

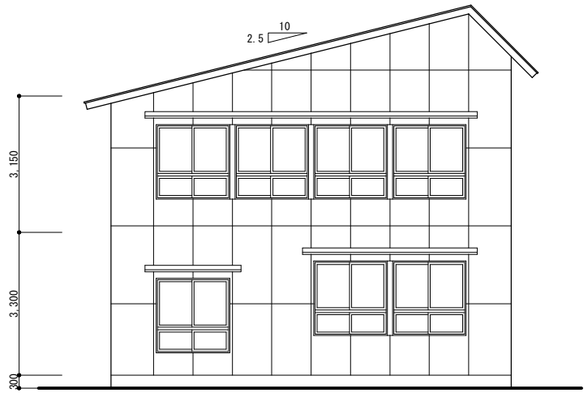
[建物概要]
用　途　管理事務所
構　造　木造　２階建て　鉄筋コンクリート布基礎
延床面積 101.03㎡（ 30.56坪）

[外部仕上]
屋　根　長尺カラー鉄板瓦棒葺き
外　壁　センチュリーボードt=18 アクリルリシン吹付
巾　木　モルタル刷毛引き仕上
軒　天　有孔石綿ケイ酸カルシウム板t=6 目透し張り EP
建　具　アルミサッシ

[内部仕上]
床　(事務室･会議室)フローリング張り
(便所・湯沸)塩ビシート張り
壁　石膏ボード張りt=12 ラフトン吹付
天　井　ロックウール吸音板張り（石膏ボード下張り）
天井高：H=2600　天井下地：木造　廻り縁：木製



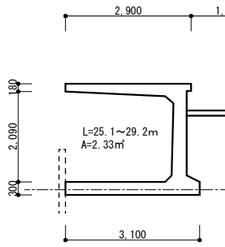
2 階 平 面 図 S=1:100



東 立 面 図 S=1:100

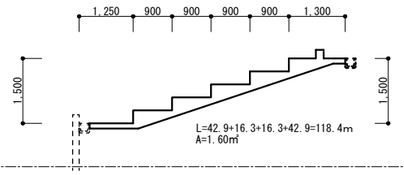
北 立 面 図 S=1:100

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	既存建物撤去図		
縮　尺	1/100	番 号	7 枚の内 D006 号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

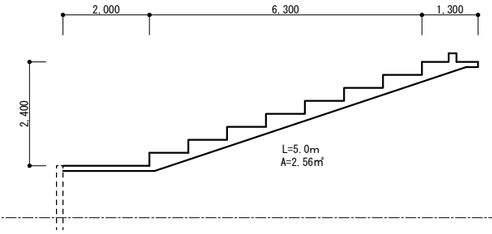


本部席

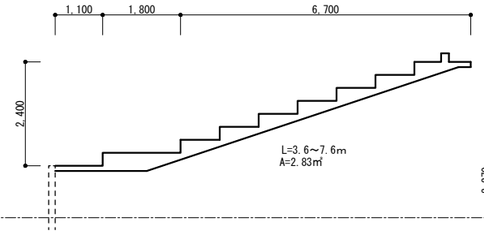
観覧席Ａ



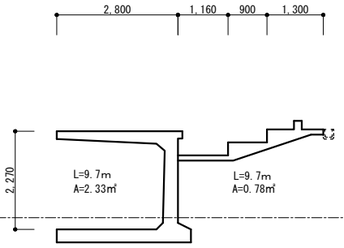
観覧席Ｂ



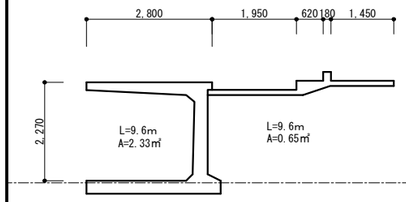
観覧席Ｃ



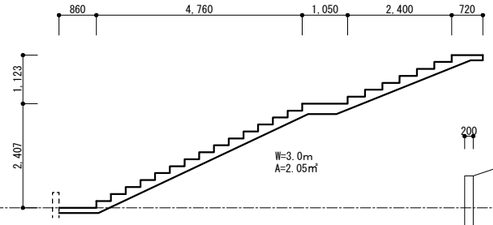
観覧席Ｄ



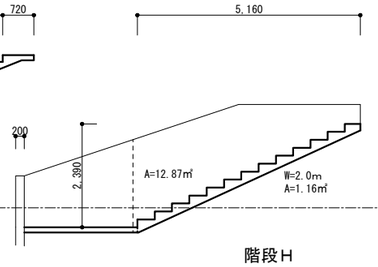
ダッグアウトＥ



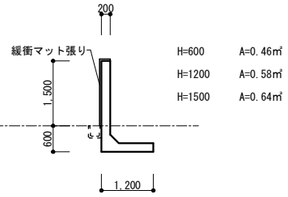
ダッグアウトＦ



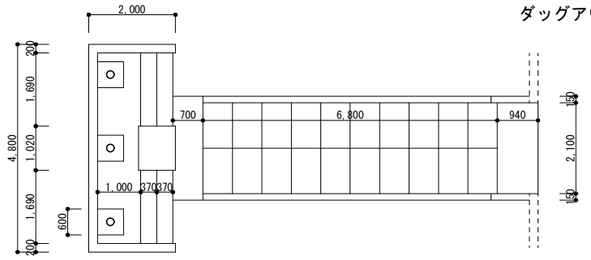
階段Ｇ

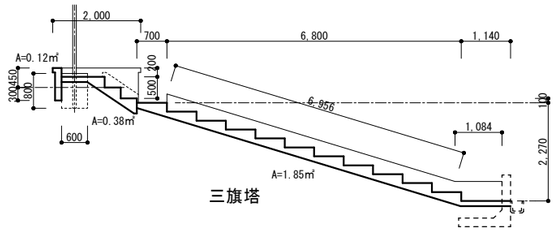


階段Ｈ

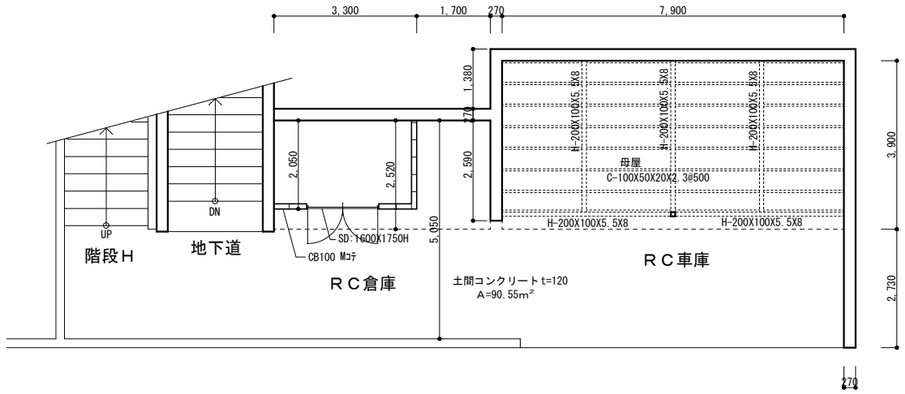


グラウンド腰壁

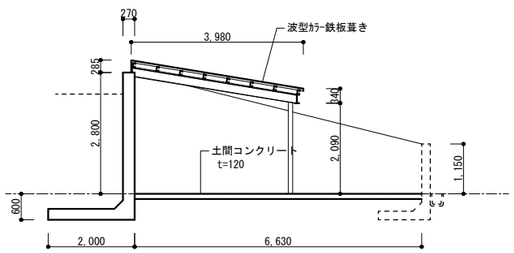




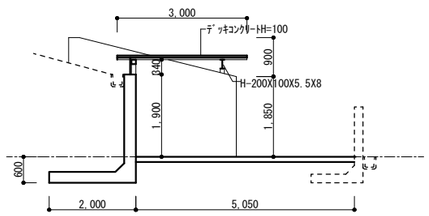
三旗塔



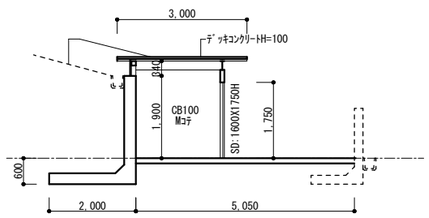
階段Ｈ　地下道　ＲＣ倉庫　ＲＣ車庫



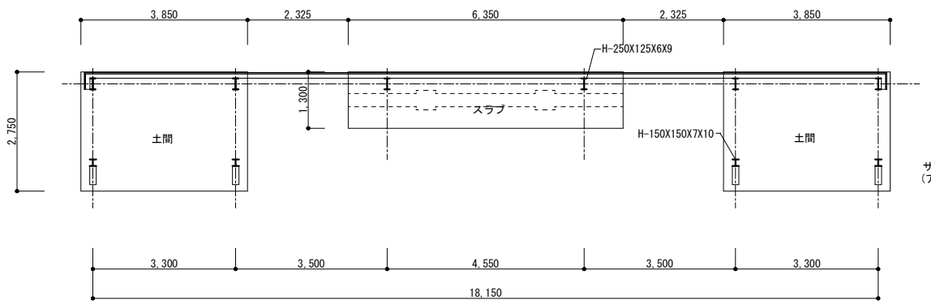
ＲＣ車庫



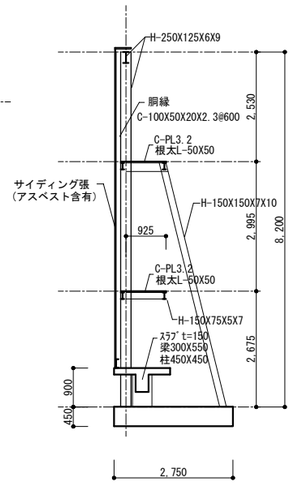
ＲＣ倉庫



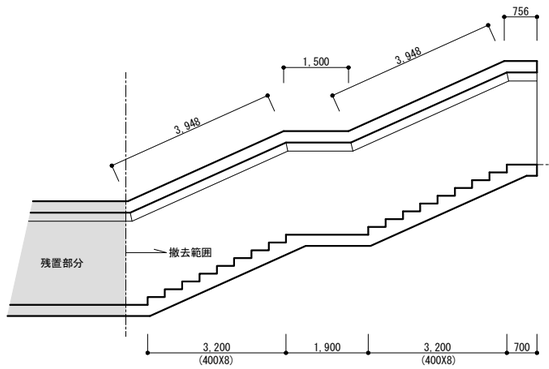
ＲＣ倉庫

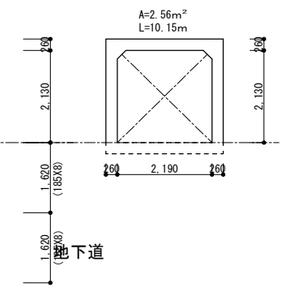


スコアボード



スコアボード





地下道

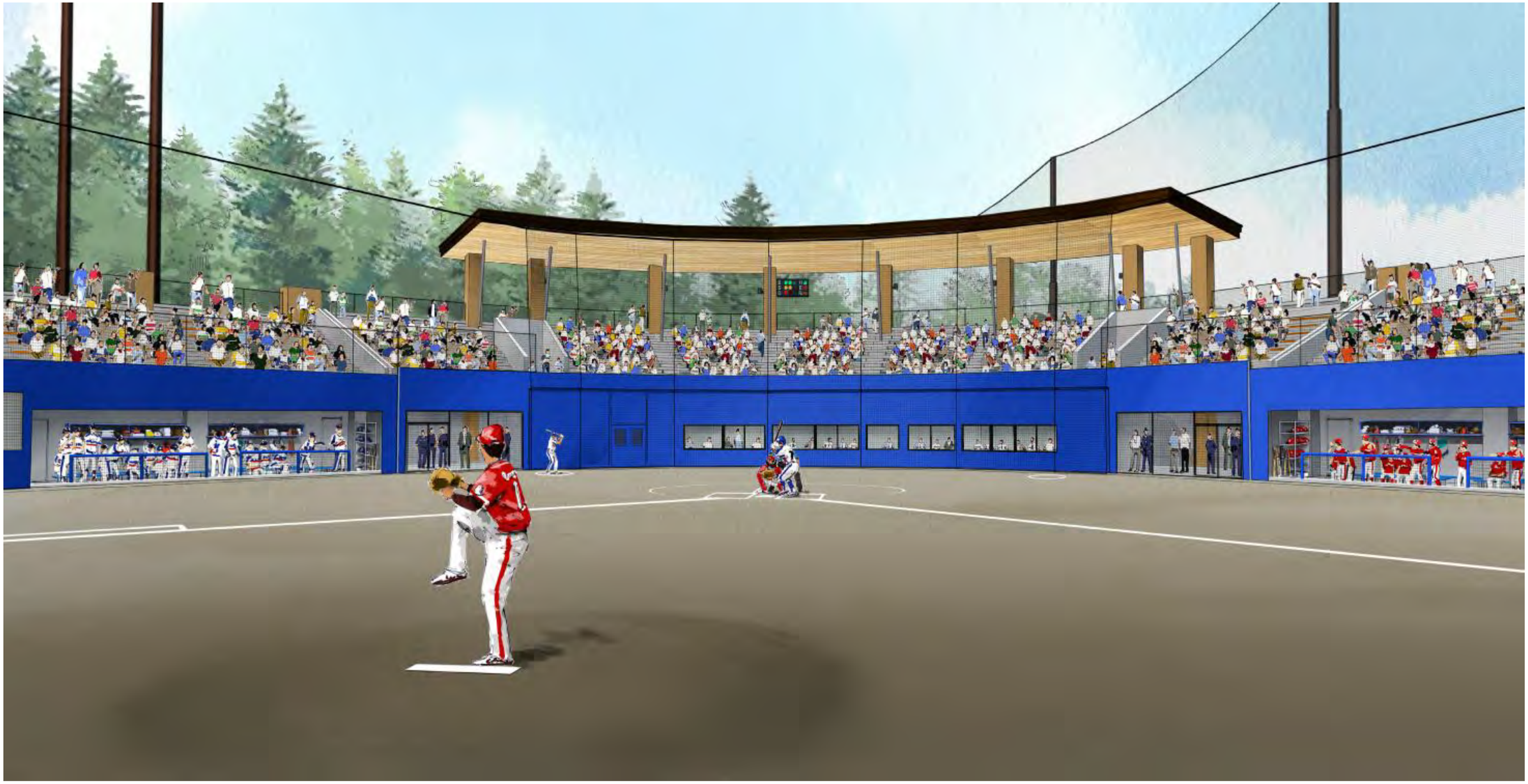
工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	既存構造物撤去図		
縮　尺	1/100	番　号	7 枚の内 D007 号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		

高　山　市

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	全景パースー１		
縮　尺	NS	番　号	6 枚の内 B001号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	全景パース－２		
縮　尺	NS	番　号	6 枚の内 B002号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	スタンド全景パースー１		
縮　尺	NS	番　号	6 枚の内 B003号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニングー級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			



工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	スタンド全景パースー２		
縮　尺	NS	番　号	6 枚の内 B004号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	スタンド外観パース		
縮　尺	NS	番　号	6 枚の内 B005号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　　山　　市			

工事名	中山公園野球場整備工事（建築）		
図　名	ロッカールーム内観パース		
縮　尺	NS	番　号	6 枚の内 B006号
設　計 年 月 日	令和７年３月		
設　計	(有)愛太プランニング一級建築士事務所 一級建築士　第266975号　門 秀樹		
高　山　市			